



Count on it.

Form No. 3401-453 Rev A

オペレーターズマニュアル

Groundsmaster® 4300-D トラクショ ンユニット

モデル番号30853—シリアル番号 316000501 以上



この製品は、関連するEU規制に適合しています。
詳細については、DOC シート規格適合証明書をご覧ください。

▲ 警告

カリフォルニア州 第65号決議による警告

米国カリフォルニア州では、この製品に、
ガンや先天性異常などの原因となる化学物
質が含まれているとされておりま

す。
カリフォルニア州では、ディーゼルエンジ
ンの排気には発癌性や先天性異常などの原因
となる物質が含まれているとされてお

注 カリフォルニア州の森林地帯・灌木地帯・草地な
どでこの機械を使用する場合には、エンジンに同州
公共資源法第4442章に規定される正常に機能するス
パークアレスタが装着されていること、エンジンに
対して森林等の火災防止措置をほどこされているこ
とが義務づけられており、これを満たさない機械
は、第4442章または4443章違反となります。

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すため
の警告記号 図 1 を使用しております。これらは死亡
事故を含む重大な人身事故を防止するための注意
ですから、必ずお守りください。



図 1

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は
製品の構造などについての注意点を、**注** はその他の
注意点を表しています。

はじめに

この機械は回転刃を使用するロータリー式乗用芝刈
り機であり、そのような業務に従事するプロのオペ
レータが運転操作することを前提として製造されて
います。この製品は、集約的で高度な管理を受けて
いるスポーツフィールドや商用目的で使用される芝
生に対する刈り込み管理を行うことを主たる目的と
して製造されております。本機は、雑草地や道路
わきの草刈り、農業用地における刈り取りなどを
目的とした機械ではありません。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十
分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全
な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全
に使用するのをお客様の責任です。

弊社のウェブサイト www.Toro.com で安全講習や運
転講習の狩猟、アクセサリ情報の閲覧、代理店に
ついての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを
行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分から
ないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマー
サービスにおたずねください。お問い合わせの際
には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお
知らせください。モデル番号とシリアル番号はフ
レームの左側、フットレストの下に取り付けた銘板
に表示されています。いまのうちに番号をメモし
ておきましょう。

目次

安全について	4	保守	32
安全に関する一般的な注意	4	推奨される定期整備作業	32
音力レベル	4	始業点検表	33
音圧レベル	4	定期整備ステッカー	34
振動レベル	4	整備前に行う作業	34
安全ラベルと指示ラベル	5	保守作業開始前の安全確認	34
組み立て	10	車体をジャッキで持ち上げる場合	35
1 コントロールアームの位置を調整する	11	潤滑	35
2 出荷用のブロックとピンを取り除く	11	ベアリングとブッシュのグリスアップ	35
3 リアウェイトを取り付ける	12	エンジンの整備	37
4 CE規格適合用フッドラッチを取り付ける	13	エンジンの安全事項	37
5 CE規格適合用スロットルストップを取り付ける	13	エアクリーナの整備	37
6 キャリアフレームを調整する	13	エンジンオイルについて	38
7 ローラスクレーパーオプションの調整	14	燃料系統の整備	40
8 マルチングバッフルオプションの取り付け	15	燃料システムの整備	40
9 マシンの準備を行う	15	ウォーターセパレータの整備	40
製品の概要	16	燃料供給チューブの整備	41
各部の名称と操作	16	燃料インジェクタからのエア抜き	41
仕様	20	電気系統の整備	41
アタッチメントとアクセサリ	20	電気系統に関する安全確保	41
運転の前に	21	バッテリーの整備	41
運転前の安全確認	21	ヒューズの交換	42
エンジンオイルの量を点検する	22	走行系統の整備	42
冷却系統を点検する	22	走行ドライブのニュートラル調整	42
油圧システムを点検する	22	後輪のトーインの調整	43
燃料を補給する	22	冷却系統の整備	43
タイヤ空気圧を点検する	23	冷却系統を点検する	43
ホイールナットのトルクを点検する	23	冷却部の清掃	44
刈り高の調整	23	ブレーキの整備	45
慣らし運転	24	駐車ブレーキの調整	45
燃料系統からのエア抜き	24	駐車ブレーキのラッチの調整	45
インタロックスイッチの動作を点検する	24	ベルトの整備	46
ブレードの停止に要する時間を確認する	25	オルタネータベルトのテンション調整	46
ブレードの選択	25	油圧系統の整備	46
故障診断ランプについて	25	油圧オイルの量を点検する	46
カウンタバランスの設定を変更する	26	油圧オイルの交換	47
アクセサリの選択	27	油圧フィルタの交換	47
運転中に	28	油圧ラインとホースの点検	48
運転中の安全確認	28	油圧システムの圧力試験	48
エンジンの始動と停止	29	油圧バルブソレノイドの機能	48
ヒント	29	刈り込みデッキの保守	49
運転終了後に	30	カッティングデッキの取り外し	49
運転終了後の安全確認	30	トラクションユニットへのカッティングデッキの取り付け	49
ロープ掛けのポイント	30	ブレードの保守	50
緊急時の牽引移動	31	刈り込みブレードについての安全事項	50
トレーラへの積み込み	31	ブレード回転面の管理	50
		ブレードの取り外しと取り付け	51
		ブレードの点検と研磨	51
		その他の保守整備	52
		前ローラの整備	52
		保管	53
		格納保管の準備	53
		カッティングデッキ	54

安全について

この機械は、EN ISO 5395:2013 規格およびANSI B71.4-2012 規格に適合しています。

安全に関する一般的な注意

この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。重大な人身事故を防ぐため、すべての注意事項を厳守してください。

この機械は本来の目的から外れた使用をすると運転者本人や周囲の人間に危険な場合があります。

- エンジンを始動する前に必ずこのオペレーターズマニュアルをお読みになり内容をよく理解してくださいこの製品を使用する人すべてが製品を良く知り、警告の内容を理解してください。
- 機械の可動部の近くには絶対に手足を近づけないでください。
- ガードなどの安全保護機器が正しく取り付けられていない時は、運転しないでください。
- 排出口の近くに、手足などを近づけないでください。周囲の人を十分に遠ざけてください。
- 作業場所に子供を近づけないでください。子供に運転させないでください。
- 整備、燃料補給、詰まりの解除作業などを行う前には、必ずエンジンを停止させてください。

間違った使い方や整備不良は人身事故などの原因となります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください「注意」、「警告」、および「危険」の記号は、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生する恐れがあります。

このマニュアルの他の場所に書かれている注意事項も必ずお守りください。

音力レベル

この機械は、音力レベルが 105 dBA であることが確認されていますただしこの数値には不確定値K0.7 dBA が含まれています。

音力レベルの確認は、EC規則 11094 に定める手順に則って実施されています。

音圧レベル

この機械は、オペレータの耳の位置における音圧レベルが 93 dBA であることが確認されていますただしこの数値には不確定値K0.7 dBA が含まれています。

音圧レベルの確認は、EN ISO 規則 5395:2013 に定める手順に則って実施されています。

▲ 注意

聴覚保護を行わずにこの機械を長時間運転し続けると聴覚に異常をきたす恐れがあります。

運転が長時間にわたる場合には必ず適切な聴覚保護具を着用するようにしてください。

振動レベル

腕および手

右手の振動レベルの実測値 = 0.72 m/s^2

左手の振動レベルの実測値 = 0.86 m/s^2

不確定値 $K = 0.5 \text{ m/s}^2$

実測は、EN ISO 5395:2013 に定められた手順に則って実施されています。

全身

振動レベルの実測値 = 0.65 m/s^2

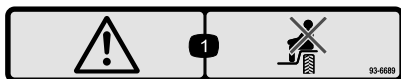
不確定値 $K = 0.5 \text{ m/s}^2$

実測は、EN ISO 5395:2013 に定められた手順に則って実施されています。

安全ラベルと指示ラベル

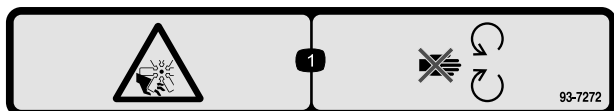


以下のラベルや指示は危険な個所の見やすい部分に貼付してあります。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



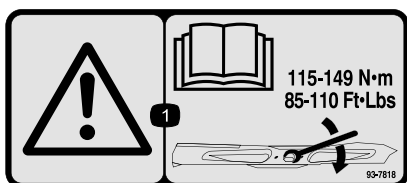
93-6689

1. 危険 プラスチック製のシュラウドに腰掛けないこと。



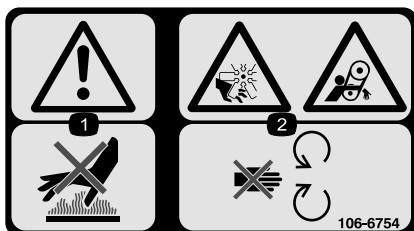
93-7272

1. ファンによる切傷や手足の切断の危険 可動部に近づかないこと。



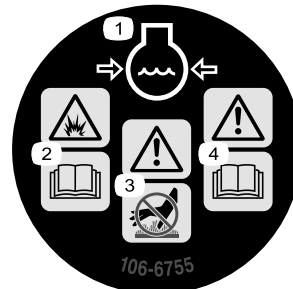
93-7818

1. 警告 ブレードボルト/ナットは115 149N・m11.8 15.2kg.m = 85 110 ft-lbにトルク締めするトルク締めの方法についてはオペレーターズマニュアルを読むこと。



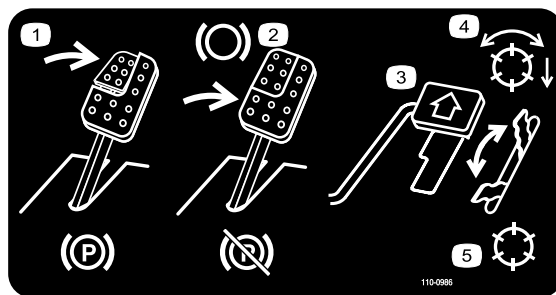
106-6754

1. 警告 表面が熱い。触れないこと。
2. ファンによる手足切断危険、およびベルトによる巻き込まれの危険 可動部に近づかないこと。



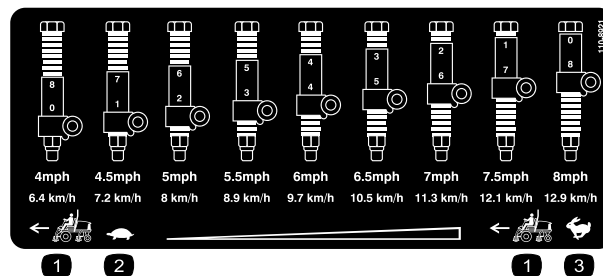
106-6755

1. 冷却液の噴出に注意。
2. 爆発の危険 オペレーターズ
3. 警告 表面が熱い。触れないこと。
4. 警告 オペレーターズマニュアルを読むこと。



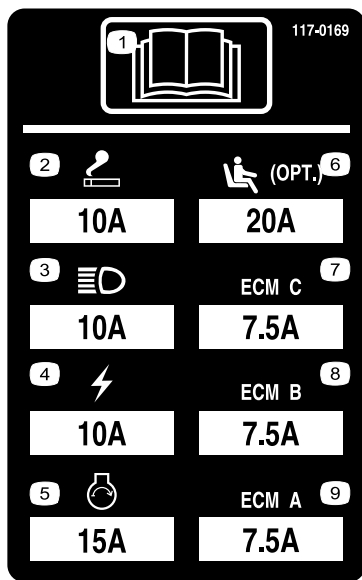
110-0986

1. 駐車ブレーキの操作方法 ブレーキペダルと駐車ブレーキペダルを踏み込む
2. ブレーキの操作方法 ブレーキペダルを踏み込む
3. 前進走行ペダルを踏み込む
4. リール回転許可モード
5. 移動走行モード



110-8921

1. トラクションユニットの速度
2. 低速
3. 高速



117-0169

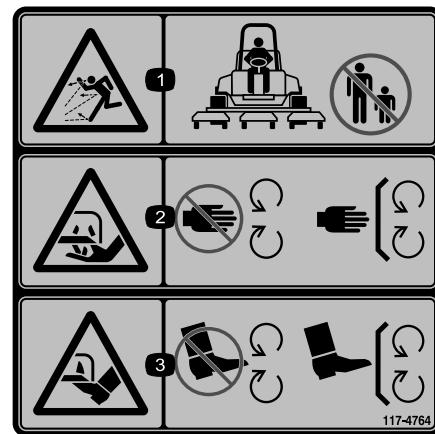
1. オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. 電源ソケット 10A
3. ヘッドライト 10A
4. 電源 10A
5. エンジン始動 15A
6. エアライドシートサスペンションオプション 20A
7. コンピュータによるエンジン管理回路 C 7.5A
8. コンピュータによるエンジン管理回路 B 7.5A
9. コンピュータによるエンジン管理回路 A 7.5A

CALIFORNIA SPARK ARRESTER WARNING

Operation of this equipment may create sparks that can start fires around dry vegetation. A spark arrester may be required. The operator should contact local fire agencies for laws or regulations relating to fire prevention requirements.

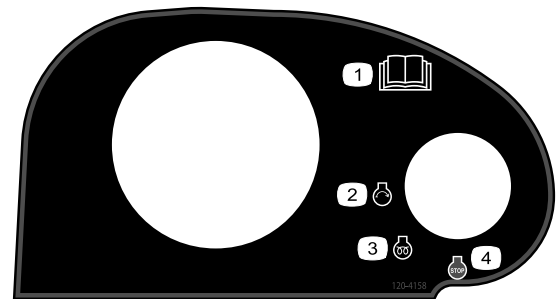
117-2718

117-2718



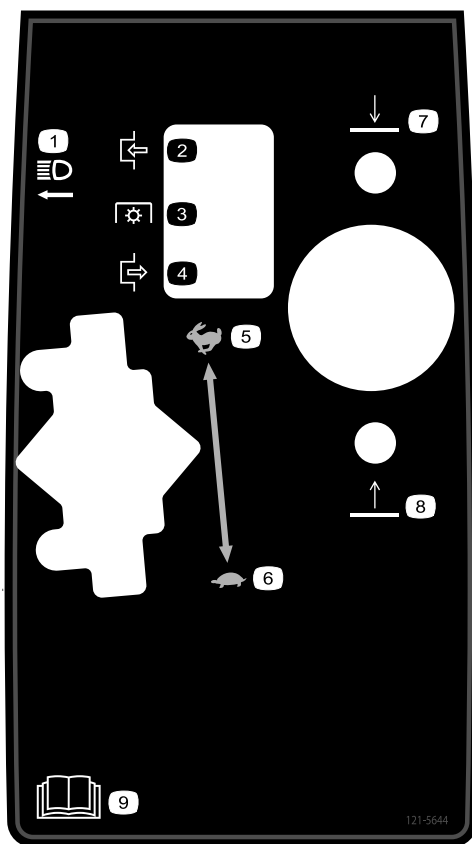
117-4764

1. 異物が飛び出す危険人を近づけないこと。
2. 手や指の切断の危険 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。
3. 足の切断の危険 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。



120-4158

1. オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. エンジン 始動
3. エンジン 予熱
4. エンジン 停止



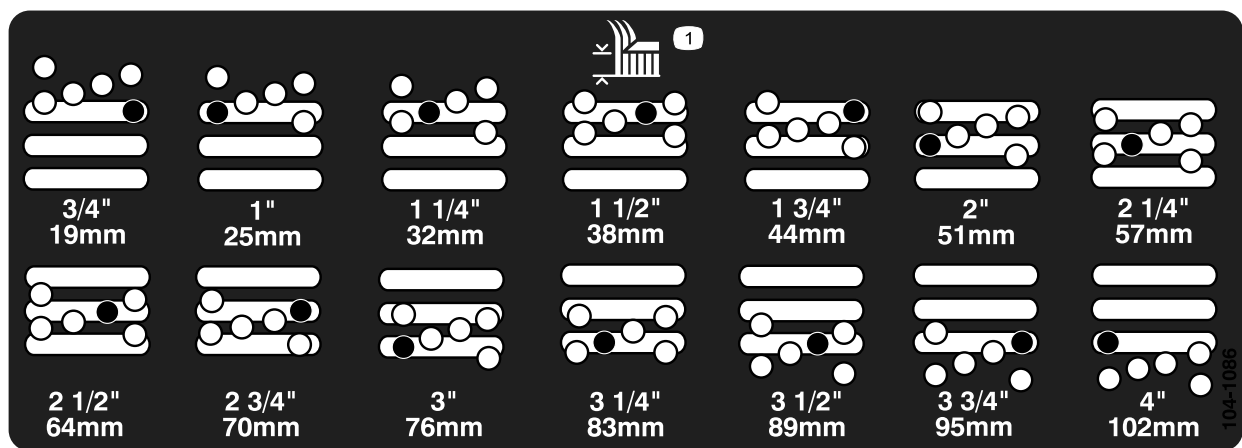
121-5644

- | | |
|------------|---------------------------|
| 1. ライトスイッチ | 6. 低速 |
| 2. 入 | 7. 下降 |
| 3. PTO | 8. 上昇 |
| 4. 切 | 9. オペレーターズマニュアル
を読むこと。 |
| 5. 高速 | |



バッテリーに関する注意標識
全てがついていない場合もあります

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1. 爆発の危険 | 6. バッテリーに人を近づけないこと。 |
| 2. 火気厳禁、禁煙厳守のこと。 | 7. 保護メガネ等着用のことと爆発性ガスにつき失明等の危険あり。 |
| 3. 劇薬につき火傷の危険あり | 8. バッテリー液で失明や火傷の危険あり。 |
| 4. 保護メガネ等着用のこと。 | 9. 液が目に入ったら直ちに真水で洗眼し医師の手当てを受けること。 |
| 5. オペレーターズマニュアル
を読むこと。 | 10. 鉛含有普通ゴミとして投棄禁止。 |



104-1086

1. 刈高

REELMASTER 5010-H/ 5410/5510/5610 & GROUNDMASTER 4300
QUICK REFERENCE AID

CHECK/SERVICE (daily)
 1. OIL LEVEL, ENGINE
 2. OIL LEVEL, HYDRAULIC TANK
 3. COOLANT LEVEL, RADIATOR
 4. FUEL /WATER SEPARATOR
 5. PRECLEANER – AIR CLEANER
 6. RADIATOR SCREEN
 7. BRAKE FUNCTION
 8. TIRE PRESSURE
 9. BELTS (FAN, ALT.)
 GREASING -- SEE OPERATOR'S MANUAL

FLUID SPECIFICATIONS/CHANGE INTERVALS

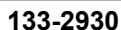
SEE OPERATOR'S MANUAL FOR INITIAL CHANGES.	FLUID TYPE	CAPACITY	CHANGE INTERVAL		FILTER PART NO.
			FLUID	FILTER	
A. ENGINE OIL	SAE 15W-40CI-4	3.5 QTS* (5010-H) 5.5 QTS.*	150 HRS.	150 HRS.	104-5167
B. HYD. CIRCUIT OIL	ISO VG 46/68	11 GALS.* (5010-H) 15 GALS.*	800 HRS.	SEE INDICATOR 800 HRS.	94-2621** 86-3010
C. AIR CLEANER				SEE INDICATOR	108-3810 (5010-H) (5410) (5510) 108-3812 (5610) (4300)
D. WATER SEPARATOR				400 HRS.	110-9049
E. FUEL TANK	NO. 2-DIESEL	14 GALS.	DRAIN AND FLUSH, 2 YRS.		
F. COOLANT	50/50 ETHYLENE GLYCOL/WATER	5.5 QTS. (5010-H) 7.0 QTS. (5410) (5510) 10.0 QTS. (5610) (4300)	DRAIN AND FLUSH, 2 YRS.		

* INCLUDING FILTER ** EXCLUDES 5010-H

Diagram showing the location of various components on the machine, labeled with numbers 1 through 9. A small icon of a book is labeled '1'.

125-8753

1. さらに詳しい保守情報についてはオペレーターズマニュアルを読むこと。



-

133-2931

1. 警告 オペレーターズマニュアルを読むこと。必ず講習を受けてから運転すること。
2. 警告 聴覚保護具を着用のこと。
3. 異物が飛び出す危険人を近づけないこと。
4. 転倒の危険 15度以上の斜面は横切らない。また、15度以上の斜面は下らないこと。必ずシートベルトを着用して運転すること。
5. 警告 斜面に駐車しないことマシンから離れる場合には、平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、キーを抜き取ること。
6. 警告 オペレーターズマニュアルを読むこと このマシンを牽引しないこと。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	－	コントロールアームの位置を調整します。
2	必要なパーツはありません。	－	出荷用のブロックとピンを取り除きます。
3	リアウエイト必要数はマシンの構成により異なる。	条件による	リアウエイトを取り付けるご注文は Toro 代理店へ。
4	フードラッチアセンブリ ワッシャ	1 1	CE規格適合用フードラッチを取り付けます。
5	スロットルストップ 固定ねじ	1 1	CE規格適合用スロットルストップを取り付けます。
6	必要なパーツはありません。	－	キャリアフレームを調整します。
7	必要なパーツはありません。	－	調整方法は以下の通り。
8	必要なパーツはありません。	－	マルチングバッフルオプションを取り付けます。
9	必要なパーツはありません。	－	マシンの準備を行います。

その他の付属品

内容	数量	用途
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にご覧ください。
エンジンマニュアル	1	
パーツカタログ	1	
規格適合認定書	1	
オペレータのためのトレーニング資料	1	

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

コントロールアームの位置を調整する

必要なパーツはありません。

手順

オペレータが運転しやすいように、コントロールアームの位置を調整することができます。

1. コントロールアームをリテーナブラケットに固定している2本のボルトをゆるめる [図2](#)。

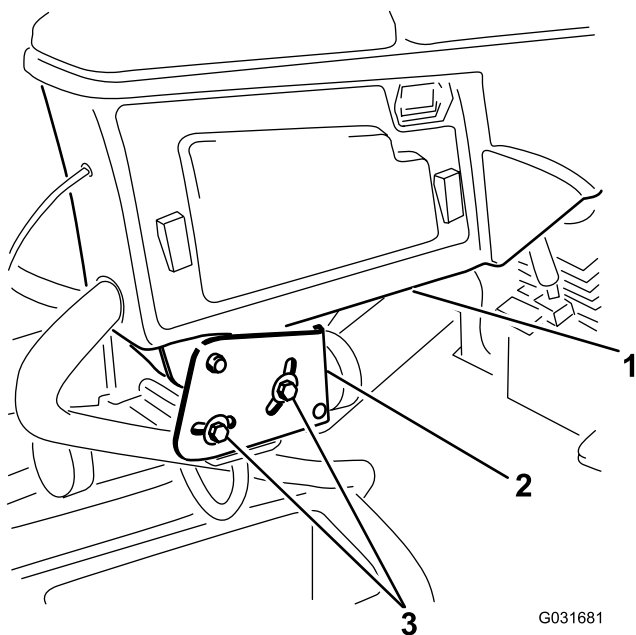


図2

G031681

- | | |
|--------------|----------|
| 1. コントロールアーム | 3. ボルト2本 |
| 2. リテーナブラケット | |

2. コントロールアームを希望位置に動かし、ボルトを締めて固定する。

2

出荷用のブロックとピンを取り除く

必要なパーツはありません。

手順

1. カuttingデッキについている出荷用のブロックを取り外して廃棄する。
2. カuttingデッキのサスペンションアームについている出荷用のピンを取り外して廃棄する。

重要 出荷用のピンは輸送中にデッキを安定させ保護するためのものですから、使用前に必ず取り外してください。

3

リアウェイトを取り付ける

この作業に必要なパーツ

条件による	リアウェイト必要数はマシンの構成により異なる。
-------	-------------------------

手順

グランドマスター 4300-D のトラクションユニットは、リアウェイト及び/又は後タイヤに 40.8kg の塩化カルシウムを充填することにより、EN ISO 5395:2013、及び ANSI B71.4-2012 規格に適合いたします。必要なウェイトの種類や数およびバラストについては次の表をご覧ください。必要なパーツを弊社代理店からご購入ください。

ウェイト P/N 110-8985-03				
構成	ANSI米国規格に適合するためのウェイト数	CE欧州規格に適合するためのウェイト数	ウェイトに必要なボルトナット類各ウェイトに2個必要	ウェイトの位置
ベースユニット	6	0	3231-34 キャリッジボルト 104-8301 ナット	3つをバンパーの上に、3つをバンパーの下に
リサイクラキッ ト搭載機	塩化カルシウム 40.8kg*	0		
サンシェード 装着時	塩化カルシウム 40.8kg*	4	3231-7 キャリッジボルト、 104-8301 ナット	つをバンパーの上に、3つをバンパーの下に
4柱 ROPS と サンシェード 装着時	塩化カルシウム 40.8kg*	4	3231-7 キャリッジボルト、 104-8301 ナット	つをバンパーの上に、3つをバンパーの下に
* 塩化カルシウムを充填する前に後タイヤにチューブを装填してください。				

重要 塩化カルシウムを充填する前に必ず後タイヤにチューブを装填してください。塩化カルシウムを搭載してターフで作業中に万が一パンクした場合は、直ちにマシンをターフの外へ退避させてください。そして、ターフへの被害を防止するため、塩化カルシウム液がこぼれた場所に十分な散水を行ってください。

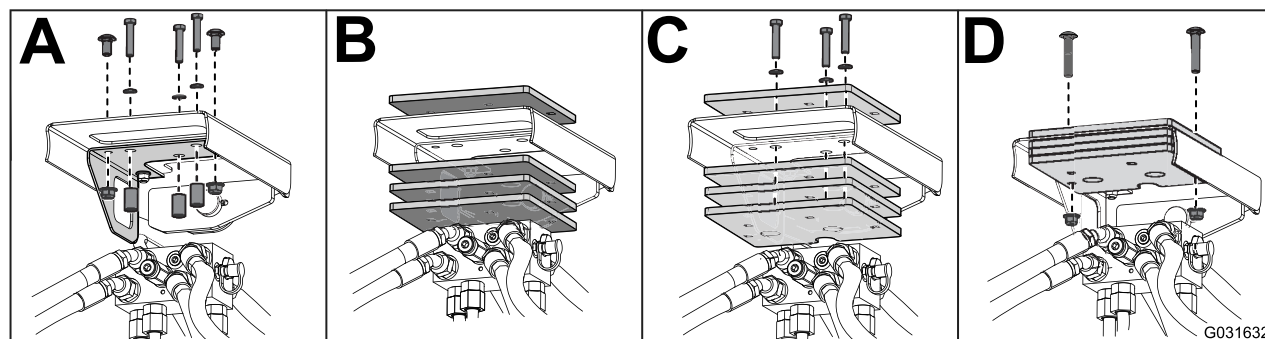
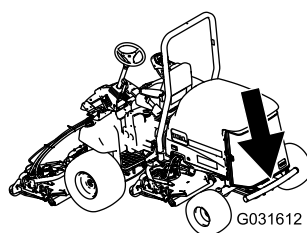


図 3

4

CE規格適合用フードラッチを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	フードラッチアセンブリ
1	ワッシャ

手順

1. ラッチを外してフードを開ける。
2. フードの左側についているゴム製のハトメを取り外す 図 4。

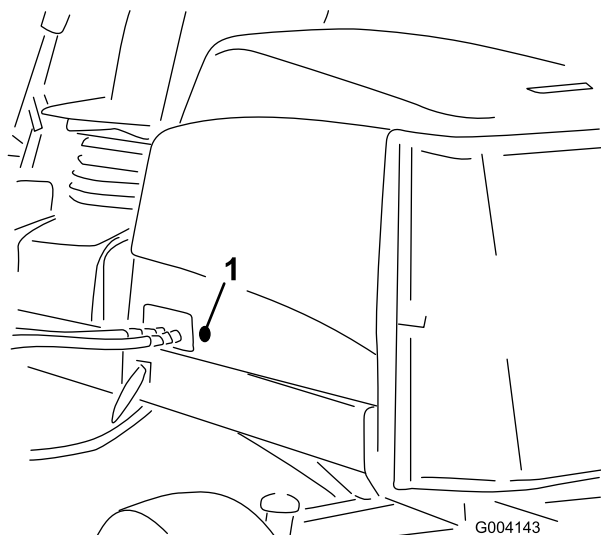


図 4

1. ゴム製のハトメ

3. フードラッチアセンブリからナットを取り外す 図 5。

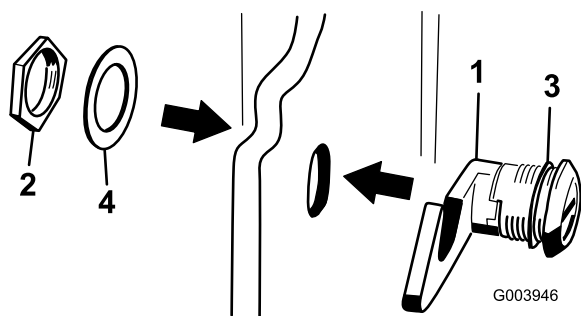


図 5

1. フードラッチ
2. ナット
3. ゴムワッシャ
4. 金属ワッシャ

4. フードの外側から、ラッチのフック側をフードの穴に通す。ゴム製のシーリングワッシャはフードの外側に残しておくこと 図 5。
5. フードの内側から、ラッチに金属ワッシャを通し、ラッチを掛けたときにラッチが確実にフレームキャッチにはまるようにラッチをナットで固定する。フードのラッチを操作するときには、付属のフードラッチ用キーを使用する。

5

CE規格適合用スロットルストップを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	スロットルストップ
1	固定ねじ

手順

1. スロットルストップについている固定ねじをゆるめる 図 6。
2. スロットルストップを、ハイアイドルねじに当たるまで寄せる 図 6。スロットルストップの面取りされている端部が外側を向くようにする。

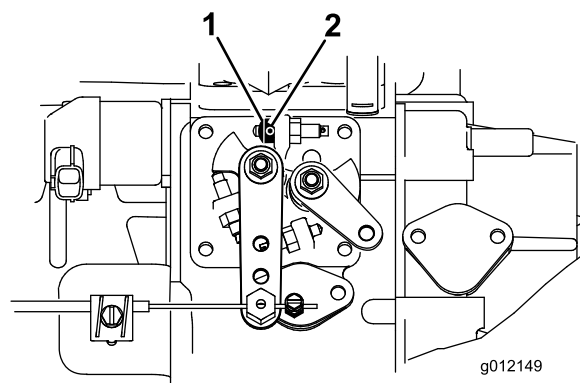


図 6

1. スロットルストップ
2. 固定ネジ

3. キーを ON 位置に回してエンジンを始動し、510分間ほど暖機運転する。
4. 刈り込みデッキをOFFにした状態で、ハイアイドルを 2,860rpm に調整する。
5. 固定ネジを締める。
6. いたずら防止のために、固定ねじを接着剤で固定しておく。

6

キャリアフレームを調整する

必要なパーツはありません。

前カッティングデッキを調整する

前カッティングデッキと後カッティングデッキではアームへの取り付け位置が異なります。前カッティングデッキには2ヶ所の取り付け位置があり、刈り高とデッキに必要な回転角度によって取り付け位置を選びます。

1. 刈高を 2076mm にセットする場合には、前キャリアフレームを下側の穴に取り付けます 図 7。

注 この位置に取り付けておくと、トラクションユニットのより前方にデッキが位置することになり急な上りマウンド状の地形に対する応答が良くなります。ただし、マウンドの頂上部を乗り越えるときの、チェーンバとキャリアとの間の隙間は小さくなります。

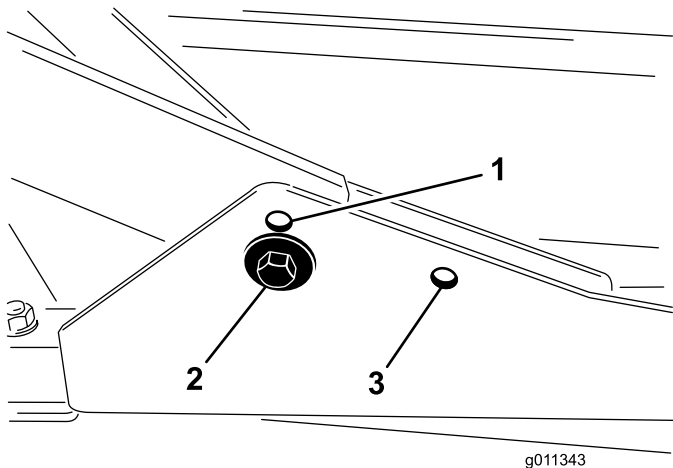


図 7

1. 前デッキ用取り付け穴上穴 3. 後デッキ用取り付け穴
2. 前デッキ用取り付け穴下穴

2. 刈高を 63100mm にセットする場合には、前キャリアフレームを上側の穴に取り付けます 図 7。

注 カッティングデッキをこの位置に取り付けておくと、チェーンバの位置が高くなる分だけキャリアとの間の隙間は小さくなりますが、前方への移動距離は小さくなります。

後ろのカッティングデッキの調整

前カッティングデッキと後カッティングデッキではアームへの取り付け位置が異なります。後カッティングデッキの取り付け位置は一箇所のみで、フレーム下のサイドワインダーに整列させて取り付けます。

後カッティングデッキは、刈り高に関係なく後側の取り付け穴を使って取り付けます 図 7。

7

ローラスクレーパオプションの調整

必要なパーツはありません。

手順

後ローラスクレーパオプションは、スクレーパとローラとの間に 0.51mm の平行な隙間があるときに最も効率よく機能するように設計されています。

1. グリスフィッティングと取り付けねじをゆるめる 図 8。

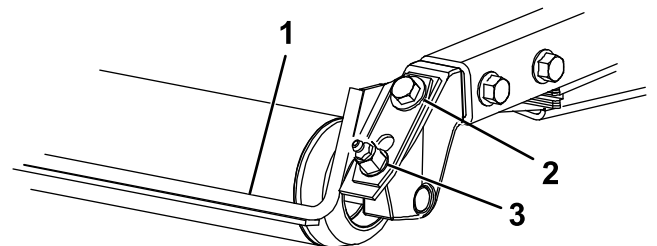


図 8

1. ローラスクレーパ 3. グリスフィッティング
2. 取り付けねじ

2. スクレーパを上下に移動させてロッドとローラとの隙間が 0.51mm になるように調整する。
3. グリスフィッティングを取り付けて、交互に 41N m 4.2kg.m = 30ft-lb にトルク締めする。

8

マルチングバッフルオプションの取り付け

必要なパーツはありません。

手順

1. チェンバの後壁および左側面の壁についている取り付け穴を十分に清掃して異物を取り除く。
2. 後部の取り付け穴にマルチングバッフルを取り付け、フランジヘッドボルト 5 本で固定する [図 9](#)。

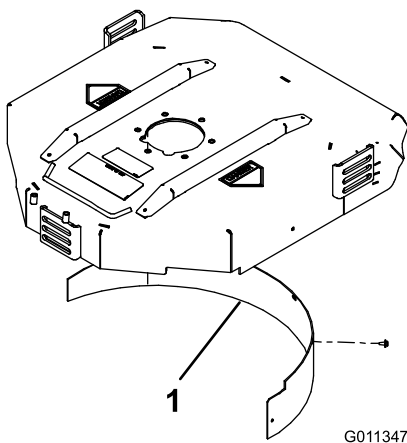


図 9

1. マルチングバッフル

3. どのマルチングバッフルもブレードに触れていないこと、また後チェンバ壁面の内側にはみ出していないことを確認する。

⚠ 危険

ハイリフトブレードでの刈り込みにマルチングバッフルを使用してはならない。ブレードが折れて人身事故にいたる危険がある。

9

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

タイヤ空気圧を点検する

運転前にタイヤ空気圧を点検する [タイヤ空気圧を点検する \(ページ 23\)](#) を参照。

重要 マシンの性能を適切に発揮させ、また質の高い刈り込みを実現するために、すべてのタイヤの空気圧を正しく維持してください。タイヤ空気圧は規定値以下にしないで下さい。

液量を点検する

1. エンジンを作動させる前エンジンオイルの量を点検する [エンジンオイルの量を点検する \(ページ 38\)](#) を参照。
2. エンジンを作動させる前に、油圧オイルの量を点検する [油圧オイルの量を点検する \(ページ 46\)](#) を参照。
3. エンジンを作動させる前に、冷却系統を点検する [冷却系統を点検する \(ページ 43\)](#) を参照。

グリスアップを行う

運転前に機械のグリスアップを行う [ベアリングとブッシュのグリスアップ \(ページ 35\)](#) を参照。この作業を怠るとマシンに急激な磨耗が発生しますから十分注意してください。

製品の概要

各部の名称と操作

座席調整ノブ

座席調整レバー(図 10)は、運転席の前後位置の調整を行います。体重調整ノブで、オペレータの体重に合わせて調整を行えます。適正位置に調整されると体重ゲージインジケータに表示が出ます。高さ調整ノブで、オペレータの慎重に合わせて調整を行えます。

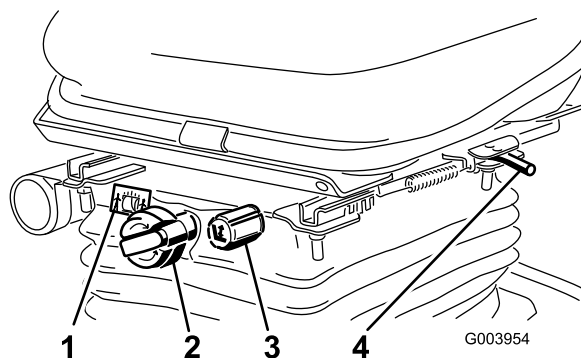


図 10

- | | |
|------------|------------|
| 1. 体重調整ゲージ | 3. 高さ調整ノブ |
| 2. 体重調整ノブ | 4. 調整レバー前後 |

走行ペダル

走行ペダル(図 11)は前進走行と後退走行を制御します。ペダル前部を踏み込むと前進、後部を踏み込むと後退です。

ペダルの踏み込みをやめると、ペダルは中央位置に戻り、走行を停止します。

刈り込み速度リミッタ

刈り込み速度リミッタ(図 11)を上位置にセットすると、事前にセットしてある刈り込み速度での走行になり、カッティングデッキが回転できるようになります。スパーサ1枚で、速度が 0.8km/h 変化します。ボルトの上側のスパーサの数が増えるほど、速度が遅くなります。移動走行を行う時は、刈り込み速度リミッタを下位置に下げて解除すると全速力での走行が可能になります。

ブレーキペダル

ブレーキペダル(図 11)を踏み込むと車両は停止します。

駐車ブレーキ

駐車ブレーキ(図 11)を掛けるには、ブレーキペダルを踏み込み、ペダルの上部についているラッチを踏み

込みます。ブレーキを解除するには、ラッチが落ちるまでペダルを踏み込みます。

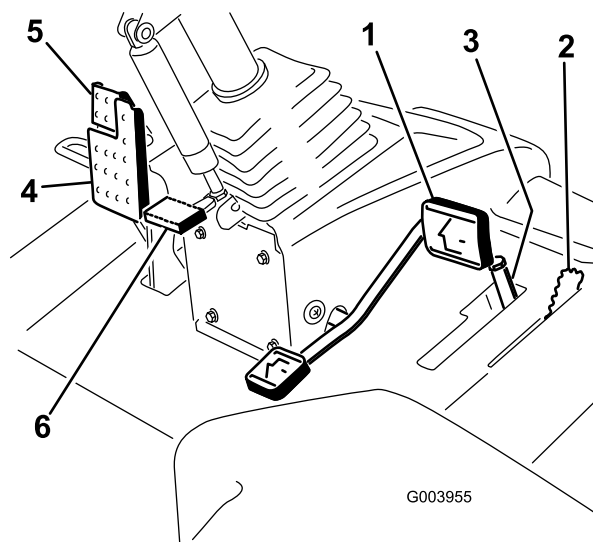


図 11

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 走行ペダル | 4. ブレーキペダル |
| 2. 刈り込み速度リミッタ | 5. 駐車ブレーキ |
| 3. スパーサ | 6. チルト調整ペダル |

チルト調整ペダル

ハンドルを手前に寄せたい場合には、ペダル(図 11)を踏みこみ、ステアリングタワーを手前に引き寄せ、ちょうど良い位置になったら、ペダルから足を離します。

ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトスイッチを下げるとヘッドライトが点灯します(図 12)。

スロットルコントロール

スロットルコントロール(図 12)を前に倒すとエンジン回転速度が速くなり、後ろに引くと遅くなります。

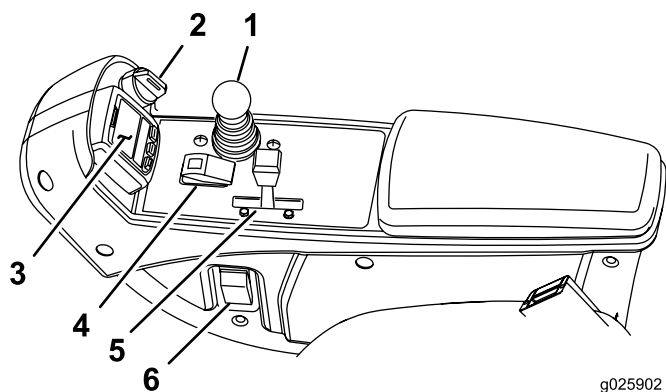


図 12

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 昇降コントロールレバー | 4. 回転許可/禁止スイッチ |
| 2. キースイッチ | 5. スロットルコントロール |
| 3. インフォセンター | 6. ヘッドライトスイッチ |

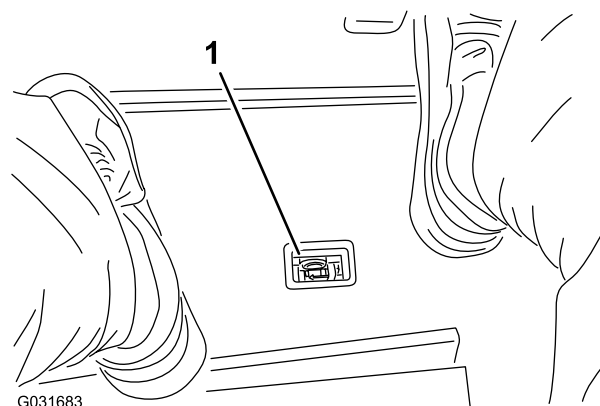


図 13

1. 油圧フィルタ整備インジケータ

キースイッチ

キースイッチ 図 12 には3つの位置があります OFF、ON/PREHEAT、STARTです。

カッティングユニット操作レバー

このレバー 図 12 で、カッティングユニットの昇降動作を行うほか、カッティングユニットが刈り込みモードになっているときには、カッティングユニットの回転と停止も行います。PTO と刈り込み速度リミッタが有効な状態で、デッキが下降状態のときにこのレバーをONにすると、デッキは回転を開始します。

回転許可/禁止スイッチ

回転許可/禁止スイッチ 図 12 はジョイスティックと連動し、デッキの回転と停止を制御します。刈り込み/移動走行切り替えレバーが移動走行位置にセットされている時は、デッキを下降させることはできません。

油圧フィルタ整備インジケータ

エンジン通常の温度で回転中はこのインジケータ 図 13 の表示が緑色の領域にあります。表示が赤色の領域に入ったら、油圧フィルタを交換してください。

電源ソケット

電源ソケットから、電動機器用に12 Vの電源をとることができます 図 14。

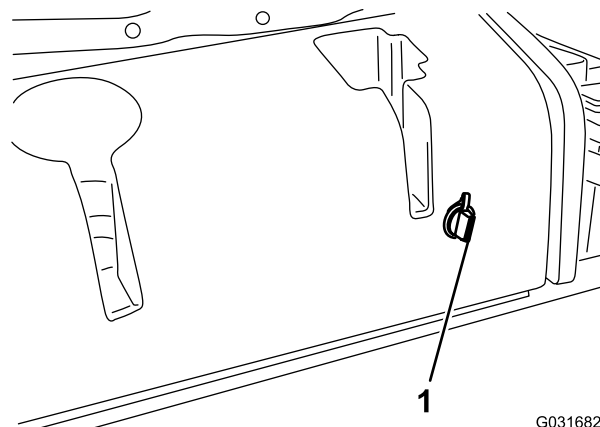


図 14

1. 電源ソケット

インフォセンターLCDの使い方

インフォセンターLCDディスプレイは、マシンの運転状態、故障診断情報を表示します 図 15。インフォセンターには初期画面とメイン情報画面があります。インフォセンターのボタンどれでもよいを押してから、矢印ボタンを使うことにより、初期画面とメイン情報画面の切り替えができます。

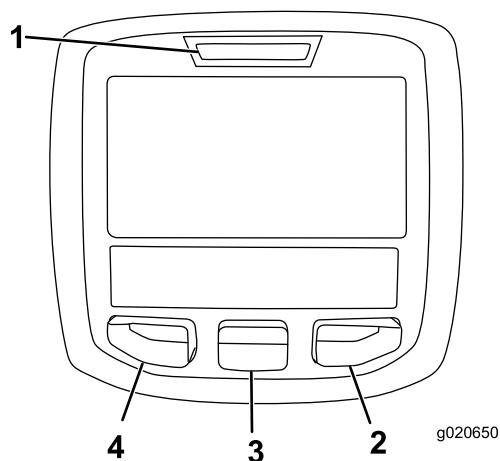


図 15

1. インジケータランプ 3. 中央ボタン
2. 右ボタン 4. 左ボタン

- 左ボタン、メニューアクセス/バックボタンこのボタンを押すと、インフォセンターのメニューが表示されます。メニュー表示中にこれを押せばメニューを終了します。
- 中央ボタンメニューを下にスクロールするときに使います。
- 右ボタン右向き矢印が表示されたとき、その先にあるメニュー項目を見るために使用します。

注 各ボタンの機能はメニューの内容によって、変わります。各ボタンについて、その時の機能がアイコンで表示されます。

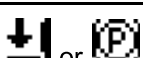
インフォセンターのアイコン

SERVICE DUE 定期整備時期です	定期整備時期であることを示します
	アワーメータ
	情報アイコン
	高速
	低速
	燃料レベル
	グロープラグが作動中。
	カッティングユニット上昇。

インフォセンターのアイコン (cont'd.)

	カッティングユニット下降。
	運転席に座る。
	駐車ブレーキがON。
H	レンジが高速移動走行位置。
N	ニュートラル
L	レンジが低速刈り込み位置。
	冷却水温度 °C または °F
	温度 高温
	PTOがON
	不許可
	エンジンを掛ける。
	エンジンを止める。
	エンジン
	キースイッチ
	刈り込みデッキ下降中。
	刈り込みデッキ上昇中。
PIN	PIN 暗証コード
CAN	CAN バス
	インフォセンター
Bad	不良または故障
	電球
OUT	TEC コントローラまたはコントロールワイヤハーネスからの出力
	スイッチ

インフォセンターのアイコン (cont'd.)

	スイッチから手を離してください。
	示された状態へ変更。
表示記号を組み合わせた文章が表示されます。以下に文章の例を示します	
	ニュートラルにしてください。
	エンジンの始動許可がありません。
	エンジンをシャットダウンします
	冷却液が過熱しています。
	着席するか駐車ブレーキをかけてください

メニューの使い方

インフォセンターのメニューにアクセスするには、メニュー画面が表示されているときにメニューアクセスボタンを押します。ボタンを押すとメインメニューが表示されます。各メニューにおいてどのような内容が表示されるかは、以下の表をご覧ください。

メインメニュー	
メニュー項目	内容
Faults 不具合	最近に記録された不具合内容を見ることができます。不具合メニューおよびその内容の詳細については、サービスマニュアルを参照するか、弊社ディストリビュータにお問い合わせください。
Service 整備	使用時間積算記録などの情報を見ることができます。
Diagnostics 診断機能	各スイッチ、センサー、制御出力の状態が表示されます。どのコントロール装置がONになっており、どれがOFFになっているかが表示されますから、故障探究を手早く行うことができます。
Settings 設定	インフォセンターの表示や機械の設定を変更することができます。
About マシンについて	モデル番号、シリアル番号、ソフトウェアのバージョンなどを確認することができます。

Service 整備	
メニュー項目	内容
Hours 運転時間	マシン、エンジン、リール、およびPTOが使用されていた時間およびマシンが移動走行していた時間と定期整備までの時間が記録されており、これらを確認することができます。
Counts 回数	マシンに発生した様々な事象の回数を表示します。

Diagnostics 診断機能	
メニュー項目	内容
カッティングユニット	カッティングユニットを上昇・下降させるための入力、許可、出力の状態を表示します。
Hi/Low レンジ	移動走行モードで運転を行うための入力、許可、出力の状態を表示します。
PTO	PTO回路を作動させるための入力、許可、出力の状態を表示します。
Engine Run エンジン作動	エンジンを始動させるための入力、許可、出力の状態を表示します。

Settings 設定	
メニュー項目	内容
Units 単位	インフォセンターで表示される項目の単位ヤードポンド法またはメートル法を選択することができます。
Language 言語	インフォセンターの表示に使う言語を選択することができます*。
LCD Backlight バックライト	LCD 表示の明るさを調整します。
LCD Contrast コントラスト	LCD 表示のコントラストを調整します。
Protected Menus 保護項目	スーパーインテントや整備士のための情報で、パスワードを入力すると見ることができます。
Counterbalance カウンタバランス	デッキに供給されるカウンタバランスの大きさを設定します。

*「オペレータ向け」のメッセージのみが翻訳表示されます。故障、整備、診断の画面は「整備士向け」メッセージです。タイトルは選択された言語で表示されますが、本文は英語表示となります。

About マシンについて	
メニュー項目	名称
Model	マシンのモデル番号を表示します。

SN	マシンのシリアル番号を表示します。
Machine Controller Revision コントローラ改訂番号	マスターコントローラのソフトウェアの改訂番号を表示します。
インフォセンターの改定番号	インフォセンターのソフトウェアの改訂番号を表示します。
CAN Bus	マシン内部の通信状態を表示します。

Protected Menus 保護項目

インフォセンターの「設定」メニューで変更可能な項目は1つだけで、それはカウンタバランスです。この設定は、「パスワード保護メニュー」で保護することができます。

注 納品時のパスワードは、代理店にて設定しています。

「パスワード保護メニュー」にアクセスするには

1. メインメニューから、下へスクロールしていくと「設定メニュー」がありますから、ここで右ボタンを押します。
2. 「設定メニュー」で、下へスクロールしていくと「パスワード保護メニュー」がありますから、ここで右ボタンを押します。
3. パスワードを入力するには、中央ボタンを押して最初の桁へ移動します。その後右ボタンを押すと次の桁へ移動します。
4. 中央ボタンを押して2番目の桁の入力を行い、その後に右ボタンを押すと次の桁へ移動します。
5. 中央ボタンを押して3番目の桁の入力を行い、その後に右ボタンを押すと次の桁へ移動します。
6. 中央ボタンを押して4番目の桁の入力を行い、その後に右ボタンを押します。
7. 中央ボタンを押してコードを入力します。
8. コードが受け付けられて保護メニューが開くと、画面右上の部分に PIN という表示が現れます。

注 パスワードを紛失したり忘れてしまったりした場合には、代理店にご連絡ください。

「パスワード保護メニュー」を閲覧・設定変更するには

1. 「保護メニュー」から下へスクロールして「設定を保護」Protect Settingsへ進みます。
2. パスワードを入力せずに「パスワード保護メニュー」を閲覧・設定変更できるようにするには、右ボタンで Protect Settings を OFF にします。

3. パスワードを入力しないと「パスワード保護メニュー」を閲覧・設定変更できないようにするには、左ボタンで設定を ON に変更し、パスワードを設定し、エンジン始動キーを OFF にしてからもう一度 ON にしてください。

カウンタバランスの設定

1. 「設定メニュー」にて、下へスクロールすると「カウンタバランス Counterbalance」があります。
2. 右ボタンで「カウンタバランス」を選択し、低、中、高の3種類から設定を選んでください。

仕様

注 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

移動走行時の幅	226 cm
刈幅	229 cm
長さ	320 cm
高さ	218cm
Net 重量*	1,412 kg
燃料タンク容量	53 リットル
移動走行速度	016km/h
刈込速度	013 km/h
* カuttingデッキと油脂類を含む。	

カuttingデッキ	
長さ	86.4cm
幅	86.4cm
高さ	24.4cm キャリアマウントまで 26.7cm 刈高 18mm のとき 34.9cm 刈高 100mm のとき
ウェイト	88kg

アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください。弊社のウェブサイト www.Toro.com でもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

せっかく手に入れた大切な機械を守り、確かな性能を維持するために、交換部品はトロの純正部品をご使用ください。純正パーツは、トロが設計・指定した、完成品に使用されているものと全く同じ、信頼性の高い部品です。確かな安心のために、トロの純正にこだわってください。

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

運転の前に

運転前の安全確認

安全に関する一般的な注意

- 子供やトレーニングを受けていない大人には、絶対に運転や整備をさせないでください地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。オーナーは、オペレータ全員にトレーニングを受講させる責任があります。
- 安全な運転操作、各部の操作方法や安全標識などに十分慣れておきましょうエンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
- すべての安全装置が正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。安全装置は、オペレータ所在確認スイッチ、インタロックスイッチ、シールド類、ROPS、アタッチメント、ブレーキなどのことを言います。すべての安全装置が正しく取り付けられ、メーカーの設計通りに機能していることが確認できない時には機械を使用しないでください。
- 使用前に必ず、ブレード、ブレードボルト、刈り込みアセンブリの点検を行ってください。バランスを狂わせないようにするため、ブレードを交換するときにはボルトもセットで交換してください。
- これから機械で作業する場所をよく確認し、機械に巻き込まれそうなものはすべて取り除きましょう。
- 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するにはどのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。

燃料についての安全事項

⚠ 危険

燃料は非常に引火爆発しやすい物質である。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- 燃料補給は必ず屋外で、エンジンが冷えた状態で行う。こぼれた燃料はふき取る。
- 箱型トレーラに本機を搭載した状態では、絶対に本機への燃料補給をしてはならない。
- 燃料取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。
- 燃料は安全で汚れのない認可された容器に入れ、子供の手の届かない場所で保管する。180 日分以上の買い置きは避ける。
- 必ず適切な排気システムが取り付けられていてそれが正常に作動する状態で使用してください。

⚠ 警告

燃料を飲み込むと非常に危険で生命に関わる。また気化した燃料に長期間ふれると身体に重篤な症状や疾病を引き起こす。

- 燃料蒸気を長時間吸わないようにする。
- ノズルや燃料タンクの注入口には手や顔を近づけないこと。
- 燃料蒸気が目や肌に触れないようにする
- 燃料の保管は必ず認可された容器で行ってください。
- エンジン回転中に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
- トラックの荷台に敷いたカーペットやプラスチックマットなど絶縁体の上で燃料の給油をしないでください。ガソリン容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油してください。
- 給油は、機械をトラックやトレーラから地面に降ろし、機体を接地させた状態で行ってください。機械を車両に搭載したままで給油を行わなければならない場合には、大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油してください。
- 給油は、給油ノズルを燃料タンクの口に接触させた状態を維持して行ってください。ノズルを開いたままにする器具などを使わないでください。
- もし燃料を衣服にこぼしてしまった場合には、直ちに着替えてください。
- 燃料の補給は、タンク上面から約25 mm下のレベルまでとしてください。燃料を入れすぎないでください。給油後は燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。

エンジンオイルの量を点検する

エンジンを始動させる前に、エンジンオイルの量を点検してください手順は [エンジンオイルの量を点検する \(ページ 38\)](#) を参照してください。

冷却系統を点検する

エンジンを始動させる前に、冷却系統を点検してください手順は [冷却系統を点検する \(ページ 43\)](#) を参照してください。

油圧システムを点検する

エンジンを始動させる前に、油圧系統を点検してください手順は [油圧ラインとホースの点検 \(ページ 48\)](#) を参照してください。

燃料を補給する

使用推奨燃料

硫黄分の少ない微量 500 ppm 未満、または極微量 15 ppm 未満の新しい軽油またはバイオディーゼル燃料以外は使用しないでください。セタン値が 40 以上のものをお使いください。燃料の劣化を避けるため、180 日以内に使いきれの程度の量を購入するようにしてください。

燃料タンク容量 53 リットル

気温が -7°C 以上では夏用燃料 2 号軽油を使用しますが、気温が -7°C 以下の季節には冬用燃料 1 号軽油または 1 号と 2 号の混合を使用してください。低温下で冬用ディーゼル燃料を使うと、発火点や流動点が下がってエンジンが始動しやすくなるばかりでなく、燃料の成分分離ワックス状物質の沈殿によるフィルタの目詰まりを防止できるなどの利点があります。

気温が -7° 以上の季節には夏用燃料を使用する方が、燃料ポンプの寿命を延ばします。

重要 ディーゼル燃料の代わりに灯油やガソリンを使わないでください。この注意を守らないとエンジンが破損します。

バイオディーゼル燃料対応

この機械はバイオディーゼル燃料を混合した B20 燃料バイオディーゼル燃料が 20、通常軽油が 80 を使用することができます。ただし、通常軽油は硫黄分の少ない、または極微量のものを使ってください。以下の注意を守ってお使いください。

- バイオディーゼル成分が ASTM D6751 または EN 14214 に適合しているものを使用してください。
- 混合後の成分構成が ASTM D975 または EN 590 に適合していること。

- バイオディーゼル混合燃料は塗装部を傷める可能性がある。
- 寒い地方では B5 バイオディーゼル燃料が 5 またはそれ以下の製品を使用すること。
- 時間経過による劣化がありうるので、シール部分、ホース、ガスケットなど燃料に直接接する部分をまめに点検すること。
- バイオディーゼル混合燃料に切り替えてからしばらくの間は燃料フィルタが目詰まりを起こす可能性があります。
- バイオディーゼル燃料についてのより詳細な情報は代理店におたずねください。

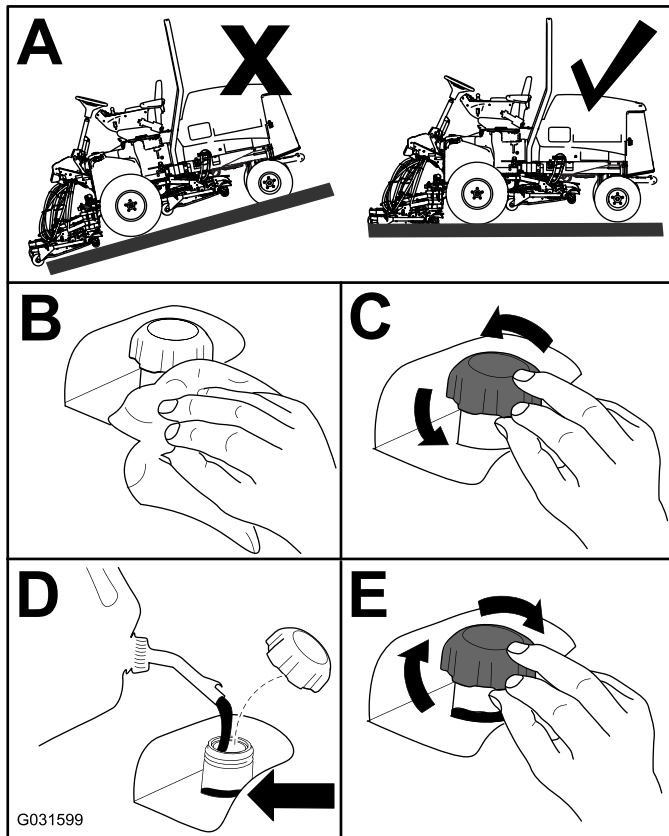
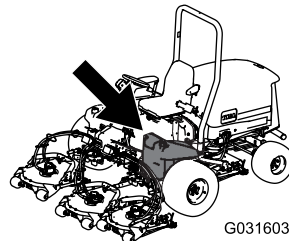


図 16

タイヤ空気圧を点検する

整備間隔: 使用するときまたは毎日

適正圧は前・後輪とも $0.831.03\text{bar}$ $0.841.05\text{kg/cm}^2$ = 1215psi です。

重要 各タイヤがターフに均等に接地するよう、全部のタイヤを同じ圧力に調整してください。

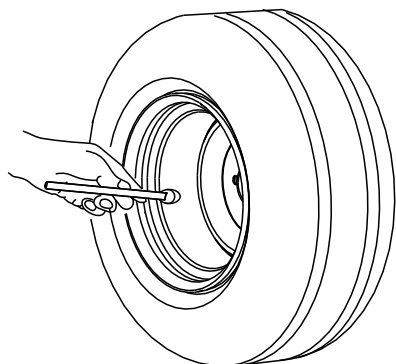


図 17

ホイールナットのトルクを点検する

整備間隔: 使用開始後最初の 1 時間

使用開始後最初の 10 時間

250 運転時間ごと

運転開始から 1-4 時間後に 1 回と 10 時間後にもう 1 回、ホイールナットのトルク締めを行う トルク値は $94122\text{N}\cdot\text{m}$ $9.712.4\text{kg}\cdot\text{m}$ = $7090\text{ft}\cdot\text{lb}$ 。その後は 250 運転時間ごとに締め付けを行ってください。

警告

この整備を怠ると車輪の脱落や破損から人身事故につながる恐れがある。

運転開始から 10 時間後に 1 回、前輪と後輪のホイールナットのトルク締めを行う トルク値は $95122\text{N}\cdot\text{m}$ $9.712.4\text{kg}\cdot\text{m}$ = $7090\text{ft}\cdot\text{lb}$ 。その後は 250 運転時間ごとにトルク締めを行う。

刈り高の調整

重要 この刈り込みデッキは、リール式のカッティングユニットよりも、実際の刈高が 6mm 程度低くなります。したがって、リールモアと同じ刈高で刈り込みたい場合には、リール式のユニットよりも刈高を 6mm 程度高く設定することが必要になる場合があります。

重要 後カッティングデッキに作業を行う場合には、トラクタから外して行う方がずっと簡単です。サイドワインダ Sidewinder® を装備している場合には、カッティングデッキを右側にスライドさせ、後

カッティングデッキを外し、機体の右側に引き出すのが最も簡単です。

1. 刈り込みデッキを下げ、キーを OFF 位置にして、抜き取ってください。
2. 各刈り高ブラケットを刈り高プレート前と右と左に固定しているボルトをゆるめる 図 18。
3. まず前から調整を始めるので、ボルトを外す。

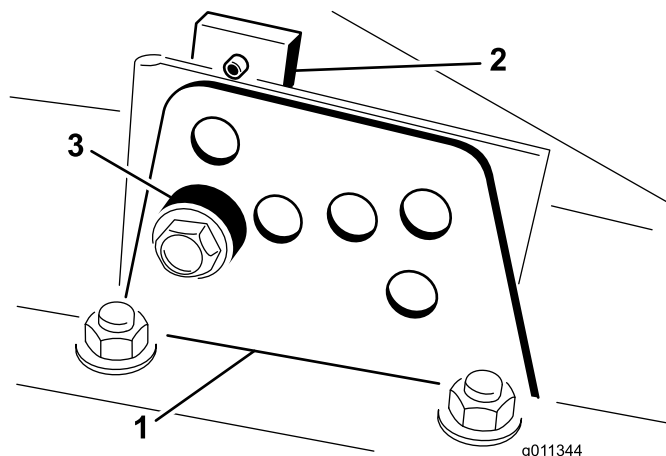


図 18

1. 刈高ブラケット
2. 刈高プレート
3. スペーサ

4. チェンバを支えておきながらスペーサを取り外す 図 19。
5. 希望の刈り高にチェンバを合わせ、その刈り高の穴とスロットにスペーサを通す 図 19。

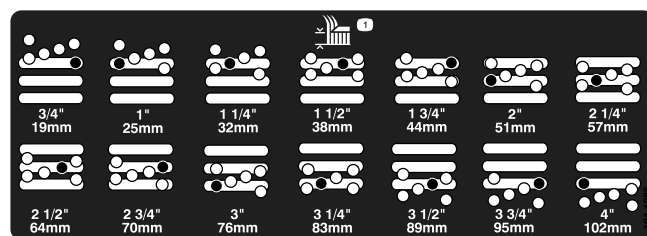


図 19

6. プレートとスペーサを整列させる。
7. ボルトを仮止め指締めする。
8. 各サイドについて、ステップ 47 の作業を行う。
9. ボルトを 3 本とも $41\text{N}\cdot\text{m}$ $4.2\text{kg}\cdot\text{m}$ = $30\text{ft}\cdot\text{lb}$ にトルク締めする。必ず、前のボルトを先に締めること。

注 刈高を大きく変更する場合 38mm 以上、例えば、31mm から 70mm に変更する場合には、一度に変更せずに二段階に分けて変更しないとうまく変更できないことがあります。

慣らし運転

駐車ブレーキの性能を最大限に発揮させるために、実際の使用前にブレーキの「慣らし掛け」をおこなってください。前進走行速度を、6.4km/h 後退速度と同じにセットします。8枚のスペーサをすべて刈り込み速度コントロールの上部に移動します。エンジンをハイアイドルにセットし、刈込速度コントロールを入れた状態で、ブレーキを15秒間踏み込みます。同様に、全速力で後退走行した状態でブレーキを15秒間踏み込みます。これを5回繰り返します。前進1回、後退1回の後、1分間の休憩をはさんでください。この後、必要に応じてブレーキを調整してください [駐車ブレーキの調整 \(ページ 45\)](#) を参照。

燃料系統からのエア抜き

以下の場合には、エンジンを始動する前に燃料システムのエア抜きを実施する必要があります

- 新車を初めて始動する時。
- 燃料切れでエンジンが停止した後に再始動する時
- 燃料系統の整備作業、例えばフィルタ交換、セパレータの洗浄などを行った後

▲ 危険

軽油は条件次第で簡単に引火爆発する。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- 燃料補給は必ず屋外で、エンジンが冷えた状態で行う。こぼれた燃料はふき取る。
- 燃料タンク一杯に入れないこと。給油は燃料タンクの首の根元から 613mm 程度下までとする。これは、温度が上昇して燃料が膨張したときにあふれないように空間を確保するためである。
- 燃料取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。
- 安全で汚れのない認可された容器で保存し、容器には必ずキャップをはめること。

1. 平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、キーを OFF にし、燃料タンクに半分以上の燃料が残っていることを確認する。
2. フードを開ける。
3. 12mm のレンチを使って、燃料噴射ポンプ [図 20](#) についているエア抜きねじを開く。

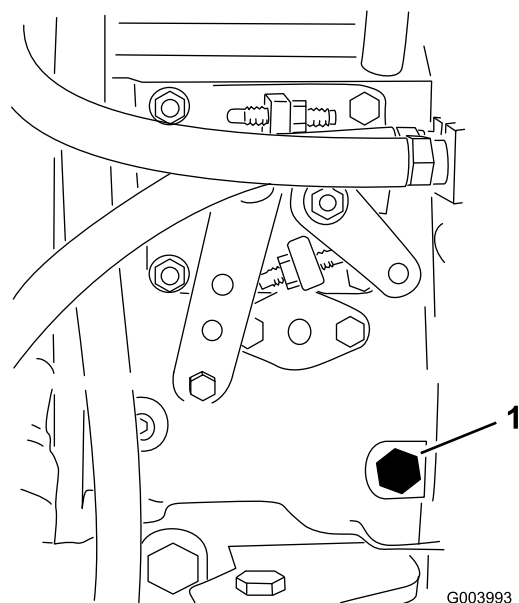


図 20

1. ブリードねじ

4. 始動キーを ON 位置に回す電動燃料ポンプが作動を開始し、エア抜きネジの周囲からエアが漏れ出てくるのが確認される。ねじから燃料が連続的に流れるのが見えるまでキーを ON 位置に保持します。
5. エア抜きねじを締め付け、始動キーを OFF 位置に戻す

注 通常は、上記のエア抜き操作でエンジンが始動できるようになります。始動できない時は、噴射ポンプとインジェクタの間にエアが入っている可能性があります [燃料インジェクタからのエア抜き \(ページ 41\)](#) を参照してください。

インタロックスイッチの動作を点検する

整備間隔: 使用することまたは毎日

▲ 注意

インタロックスイッチは安全装置でありこれを取り外すと予期せぬ人身事故が起こり得る。

- インタロックスイッチをいたずらしない。
- 作業前にインタロックスイッチの動作を点検し、不具合があれば作業前に交換修理する。

インタロックスイッチは、オペレータが座席にいないのに走行ペダルが踏まれた場合にマシンを停止させます。走行ペダルがニュートラル位置にある時にはオペレータが座席を離れてもエンジンは停止しません。PTOレバーと走行ペダルを解除しておけばエンジンは回転を続けますが、運転席を離れる場合にはいつでもエンジンを停止させる習慣をつけてください。

インタロックスイッチの点検手順を以下に示します

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛ける。
2. 走行ペダルを踏み込む。始動キーを ON 位置に回す

注 クランキングする場合はインタロックスイッチが故障している。必ず運転前に修理を済ませるようにする。

3. 始動キーをON位置に回し、運転席から立ち上がり、PTOスイッチをON位置にする。

注 PTOが回転を開始しなければ正常。PTOが作動する場合はインタロックスイッチが故障している。必ず運転前に修理を済ませるようにする。

4. 駐車ブレーキを掛け、始動キーをON位置に回し、走行ペダルをニュートラル以外の位置に動かす。

注 インフォセンターに「走行が許可されません」と表示され、マシンが走行を開始しなければ正常。マシンが動き出す場合はインタロックシステムが故障している。必ず運転前に修理を済ませるようにする。

ブレードの停止に要する時間を確認する

整備間隔: 使用するとまたは毎日

ブレード回転スイッチを OFF にしてからおよそ 5 秒以内にカッティングデッキのブレードが完全に停止する必要があります。

注 ブレードが物を跳ね飛ばしたり、ほこりを巻き上げたりしないよう、この点検はきれいに刈り込んだターフの上または平らな床の上で行ってください。

1. 刈込ブレードから少なくとも 6m 離れた位置に人を立たせて、ブレードの動きを観察するようにしてください。
2. カッティングデッキのスイッチを切ってからブレードが完全に停止するまでに掛かった時間を計ります。

注 停止に要する時間が 7 秒以上の場合は、ブレーキバルブの調整が必要です。この調整は、弊社代理店に依頼してください。

ブレードの選択

標準コンビネーションセイル

草の状態に関係なく、非常に効率よく草を立たせ、刈りかすをきれいに分散させます。立ち上げをより強くあるいは弱く、また排出速度をより強くある

いは弱くしたい場合には、別種類のブレードの使用を考慮してください。

特徴 ほとんどの条件で効率よく草を立たせ、刈りかすをきれいに分散させる。

山形セイル

低めの刈高1964mmで最もよく性能を発揮する。

特徴

- 刈り高を低くしても、刈りかすが均一に散る。
- 刈りかす左側へ片寄る傾向が抑えられるので、バンカーやフェアウェイの周りがきれいに見える。
- 密集した芝で刈り高が低い方が小さなパワーで刈れる。

ハイリフト平行セイル

高めの刈高70100mmで最もよく性能を発揮する。

特徴

- 上昇気流も排出速度も大きい。
- 密度の低い芝生や柔らかい芝生で刈り高を高くしたときに、芝草をしっかりと立たせる。
- 濡れてくっつきやすくなった刈りカスを効率良く排出し、デッキが詰まりにくい。
- 運転に大きなパワーを必要とする。
- 刈りかすが左側へ片寄る傾向が強いので、刈り高が低いと刈りかすが畝状にたまりやすい。

▲ 警告

ハイリフトブレードでの刈り込みにマルチングバッフルを使用してはならない。ブレードが折れて人身事故にいたる危険がある。

アトミックブレード

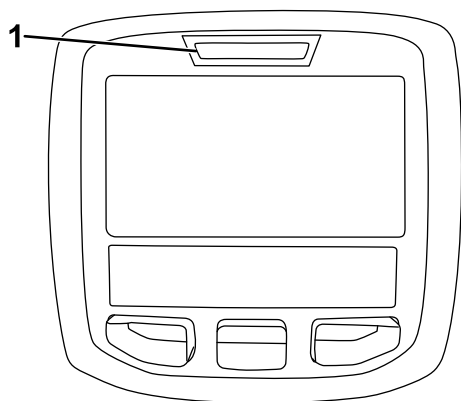
落ち葉のマルチングに最高の性能を発揮するように設計されているブレード。

特徴 落ち葉のマルチングに最適

故障診断ランプについて

このマシンには故障診断用ランプが付いており、電気系統の異常を探知するとそれを知らせます。故障診断ランプはインフォセンター表示画面の上についています [図 21](#)。マシンが適切に作動している場合には、キースwitchをON/RUN位置にすると、コントローラの診断ランプが短時間点灯し、ランプが正常に作動していることを示します。アドバイスメッセージが表示されると、ランプが点灯してメッセージがあることを知らせます。故障メッセージが表

示された場合にはランプが点滅し、その故障が解消されるまで点滅を続けます。.



g021272

図 21

1. 故障診断ランプ

カウンタバランスの設定を変更する

ターフのコンディションは場所によって同じでなく、時期によっても変化しますのでカウンタバランスの設定デッキを持ち上げようとする力も変更することができるようになっています。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングデッキを下降させ、エンジンキーをOFF位置にし、駐車ブレーキを掛ける。
2. 始動キーを RUN 位置に回す。
3. インフォセンターの「設定メニュー」にて、下へスクロールすると「カウンタバランス Counterbalance」があります。
4. 右ボタンで「カウンタバランス」を選択し、低、中、高の3種類から設定を選んでください。

注 調整が終わったら試運転を行い、新しい設定で希望通りの刈り込みができていることを確認してください。設定の変更によって刈高が変化する場合があります。

アクセサリの選択

オプションの機器構成

	アングルセイルブレード	ハイリフト平行セイルブレード (マルチングバッフルと同時に使用しないこと)	マルチングバッフル	ローラスクレーパ
芝生の刈り込み刈高 1944mm	ほとんどの場合に推奨	密度の低いまたはまばらな草地で使用可能	寒地型の芝草を少なくとも週 3 回刈る 草丈の 1/3 以上を切り込まない場合に刈りかすの分散をきれいにする。 ハイリフト平行セイルブレードには使用しないこと	ローラに刈りかすがこびりつく、刈りかすが広く平らにかたまって残るなどの場合にはいつでも使用してよい。場合により、刈りかすの塊が増える場合がある
芝生の刈り込み刈高 5064mm	密度の高いまたはよく繁茂した草地に推奨	密度の低いまたはまばらな草地に推奨		
芝生の刈り込み刈高 70100mm	よく茂った草地で使用可能	ほとんどの場合に推奨		
落ち葉のマルチング	マルチングバッフルの使用を推奨	使用禁止	コンビネーションセイルブレードまたはアングルセイルブレードとのみ使用可能	
長所	低い刈高で均一な排出。バンカーやフェアウェイまわりでの仕上がりがきれい パワー消費が少ない	草をしっかりと立たせ、排出力も強い密度の低いまばらなターフを高い刈高で刈り込むことができる。ぬれてベタつく刈りかすも効率よく排出する	用途により刈りかすの分散をきれいにし刈り上がりを美しく見せることができる。落ち葉のマルチングに非常に効果がある。	ローラへの刈りかすのこびりつきを減らす。
短所	刈高が高いと十分に草を立たせられない。草がぬれているとデッキ裏側にこびりついて刈り上がりが悪くなりパワー消費も増える。	用途によってはパワー消費が大きくなる。旺盛に成長した草を低く刈ると刈りかすがうね状にあつまる傾向が出る。マルチングバッフルと一緒に使用しないこと。	一度に大量の草を処理しようとするときデッキ内部にたまりを作る	

運転中に

運転中の安全確認

安全に関する一般的な注意

- オペレータやユーザーは、自分自身と他人の安全および物損などに対する責任があり、オペレータやユーザーの注意によって様々な事故を防止することができます。
- 作業にふさわしい服装をする安全めがね、すべりにくく安全な靴、聴覚保護具を着用してください。安全靴と長ズボンの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられていますのでご注意ください。長い髪は束ねてください。装飾品は身に着けないでください。
- エンジンを掛ける前に、全部の駆動装置がニュートラルであること、駐車ブレーキが掛かっていることを確認し、運転席に着席してください。
- 可動部に手足などを近づけないよう注意してください。
- 疲れている時、病気の時、アルコールや薬物を摂取した時は運転しないでください。
- 刈りかすの排出口を、人やペットの方に向けしないでください。
- どうしても必要な時以外は、バックしながらの刈り込みは行わないこと。バックしながらの刈り込みざるを得ない場合は、必ず後方の安全、特に子供がいないことを確認し、刈り込み中も安全確認を怠らないようにしてください。子供が作業場所に入ってきた場合には、十分に警戒し、作業を停止してください。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くや視界のきかない場所では安全に特に注意してください。
- 段差や溝、大きく盛り上がった場所の近くなどでは作業しないでください。万一車輪が段差や溝に落ちたり、地面が崩れたりすると、機体が瞬時に転倒し、非常に危険です。
- 絶対に人を乗せないでください。
- 機械の運転は十分な視界の確保ができる適切な天候条件のもとで行ってください。落雷の危険がある時には運転しないでください。
- ぬれた芝の上では作業しないでください。接地力が落ちてスリップする危険が高くなります。
- ブレードが回転中は絶対に刈り込みデッキを上昇させないでください。
- 異物をはね飛ばしたときや機体に異常な振動を感じたときには運転を停止してよく点検してください。異常を発見したら、作業を再開する前にすべて修理してください。
- 刈り込み中以外にはブレードの回転を止めてください。特に、砂利道の横断時などにブレードが回転していると非常に危険です。

- 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。常に道を譲る心掛けを。
- 公道走行中は、法律等で禁止されている場合を除き、必ず警告ランプを点滅させてください。
- 燃料を補給する時や刈高を変更する時は、必ずアタッチメントを停止させ、エンジンを止めてください。
- エンジンを停止する時にはスロットルを下げておいて下さい。また、燃料バルブの付いている機種ではエンジン停止後に燃料バルブを閉じてください。
- 排気ガスが充満するような締め切った場所では絶対にエンジンを運転しないでください。
- エンジンを掛けたまま機体から離れないでください。
- 運転位置を離れる前に
 - 平らな場所に停止する。
 - PTOの接続を解除し、アタッチメントを下降させる。
 - 駐車ブレーキを掛ける。
 - エンジンを止め、キーを抜き取る。
 - すべての動作が停止するのを待つ。
- エンジンの回転数調整速度を変えないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故が起こる恐れが大きくなります。
- この機械を牽引用車両として使用しないでください。
- 弊社Toro® カンパニーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。

横転保護バーROPSについての安全確認

- POPSは機体から外さないでください。
- 必ずシートベルトを着用し、緊急時にはシートベルトを迅速に外せるよう練習しておいてください。
- 運転時には必ずシートベルトを着用のこと。
- 頭上の安全、たとえば木の枝、門、電線などに注意し、これらに機械や頭をぶつけないかどうかを確認しながら運転してください。頭上の異物に触れないように注意してください。
- ROPS自体に損傷がないか、また、取り付け金具がゆるんでいないか、定期的に十分に点検を行い、万一の際に確実に役立つようにしておいてください。
- ROPSが破損した場合は新しいものに交換してください。修理や裏返しての使用はしないでください。
- ROPSの改造はどのような場合でもToro® 社の事前承認が必用です。

斜面での安全確保

- ・ 斜面では必ず減速し、安全に十分注意して運転してください。斜面では、推奨された走行方向を守って作業してください。ターフの状態は、マシンの安定性に大きな影響を与えます。
- ・ 斜面での発進・停止・旋回は避けてください。坂を上れないと分かったら、ブレードを止め、ゆっくりとバックで、まっすぐに坂を下りてください。
- ・ 小さな旋回をしないでください。後退は十分注意して行ってください。
- ・ 斜面を通行する時には、必ず全部のカッティングユニットを降下させてください。
- ・ 斜面では旋回操作は避けてください。どうしても旋回しなければならない場合は、ゆっくりと大きく、可能であれば谷側に、旋回してください。
- ・ アタッチメントを搭載すると機械の安定性が変化しますから、運転には特に注意してください。

エンジンの始動と停止

重要 エンジンを始めて始動するとき、燃料切れによってエンジンが停止したとき、燃料系統の整備作業を行った後では、燃料系統からのエア抜きを行う必要があります。**燃料インジェクタからのエア抜き(ページ 41)**を参照してください。

エンジンの始動手順

1. 運転席に座り、ペダルがニュートラル位置となるように走行ペダルから足をはなし、駐車ブレーキが掛かっているのを確認し、スロットルを FAST 位置にセットし、リール回転許可/禁止スイッチが禁止 DISABLE にセットされているのを確認する。
2. 始動キーを ON/PREHEAT 位置に回す
注 自動タイマーが作動して、約6秒間の予熱が行われる。
3. グローランプが消えたら、キーを START 位置に回す。
4. スタータモータは15秒間以上連続で作動させないようにすること。エンジンが始動したら、キーから手を離す。
5. 予熱が不足している場合には、キーを一旦 OFF 位置に戻し、もう一度 ON/PREHEAT 位置に回す。必要に応じてこの操作を繰り返す。
6. エンジンが温まるまで、低速で暖機運転する。

エンジンの停止手順

1. すべてのコントロールをニュートラルに戻し、駐車ブレーキを掛け、スロットルをローアイドルにしてエンジンの回転速度を下げる。

重要 高負荷で運転した後は、エンジンを停止させる前に5分間程度のアイドリング時間を

とってください。これを怠るとターボチャージャ付きのエンジンではトラブルが発生する場合があります。

2. キーを OFF 位置に回してキーを抜き取る。

ヒント

運転操作に慣れる

実際に芝刈りを始める前に、安全な場所で運転操作に十分慣れておいてください。特に機械の始動、停止、前進走行と後退走行、カッティングデッキの回転、停止、昇降動作などを十分に練習してください。操作に慣れてきたら、斜面の上り下りや速度を変えての運転も練習しましょう。

警告システム

作業中に警告灯が点灯したら、直ちに機械を停止し原因を確認してください。異常を放置したまま作業を続けると本機に重大な損傷を招く可能性があります。

刈り

始動キーを ON 位置に回し、エンジンを始動し、運転席から立ち上がり、スロットルを FAST 位置にします。リール回転スイッチを回転許可にし、ジョイスティックでカッティングデッキを降ろば刈り込みが始まります。走行ペダルを前進側に踏み込めば刈り込みが始まります。

注 高負荷で運転した後は、エンジンを停止させる前に5分間程度のアイドリング時間をとってください。これを怠るとターボチャージャにトラブルが発生する場合があります。

刈り込みは芝が乾いている時に

刈り込みは、朝露を避けて遅めの午前中か、直射日光を避けて午後遅くに行いましょう。露があると草がかたまりになりやすく、また刈りたての草は強い直射日光に当たるとダメージを受けます。

適切な刈高を選択する

一度に切り取る長さは25 mm以内に抑えましょう。草丈の1/3以上は刈り取らないのが原則です。成長期の密生している芝生では刈り高設定をさらに一目盛り上げる必要があるかもしれません。

いつも鋭利なブレードを使うこと

刃先が鋭利であれば、芝草の切り口もきれいです。切れ味の悪い刃先は芝草を引きちぎるので、切り口が茶色に変色し、芝草の成長を悪くし、また病気にもかかりやすくなります。ブレードが適切な状態であり、セールの形状が完全であることを確認してください。

デッキのコンディションを確認しましょう

デッキのチェンバブレードのある空間を良いコンディションに維持してください。チェンバの内部が曲がっていたりしたら、元通りに修正し、ブレードとチェンバの壁との間に適切なすきまを確保してください。

作業後の洗浄と点検

きれいな刈りあがりを維持するために、刈り込みデッキの裏側をきれいに洗浄してください。刈りかすがこびりつくと、刈り込みの性能が十分に発揮されなくなります。

移動走行

芝刈りが終わったらリール回転スイッチを回転禁止とし、刈り込みデッキを移動走行位置に上昇させてから移動を開始します。刈り込み/移動走行切り替えレバーを移動走行位置にセットしてください。狭い場所を通り抜ける時、カッティングデッキをぶつけて損傷しないよう十分注意してください。斜面の通行には最大の注意を払ってください。また、転倒事故を起こさないように、法面では速度を控えめにし、急旋回をしないでください。下り坂ではハンドリングを安定させるためにカッティングデッキを下降させてください。

運転終了後に

運転終了後の安全確認

安全に関する一般的な注意

- 火災防止のため、カッティングユニットや駆動部、マフラーの周囲に、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
- 格納保管中やトレーラで輸送中は、燃料バルブを閉じておいてください。
- 移動走行時など、刈り込みなどの作業をしていない時には、アタッチメントの駆動を解除しておいてください。
- 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、絶対に機械や燃料容器を保管格納しないでください。

牽引時の安全事項

- この機械の牽引は、必ず牽引装置ヒッチを装備した車両で行ってください。牽引される側の機械は、ヒッチポイントでのみ連結してください。
- メーカーが決めた牽引時の重量制限や斜面での牽引制限を守ってください。斜面などでは、牽

引される側の機械の重量によって運転制御ができなくなる危険があります。

- 牽引される側の機械には絶対に子供などを乗せないでください。
- 牽引は低速で行い、停止距離を十分にとってください。

ロープ掛けのポイント

- 機体の前側各前輪の内側、アクスルチューブの下にある四角いパッド [図 22](#)。

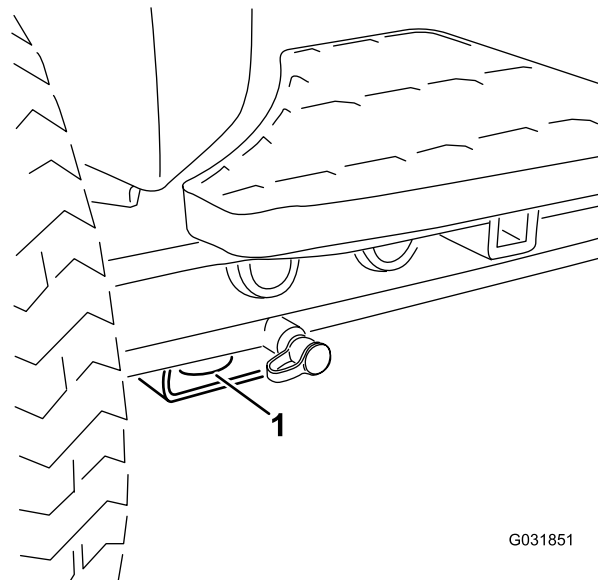


図 22

1. 車両前部のロープ掛けポイント

- 機体の後側車両の左右側それぞれの後フレーム [図 23](#)。

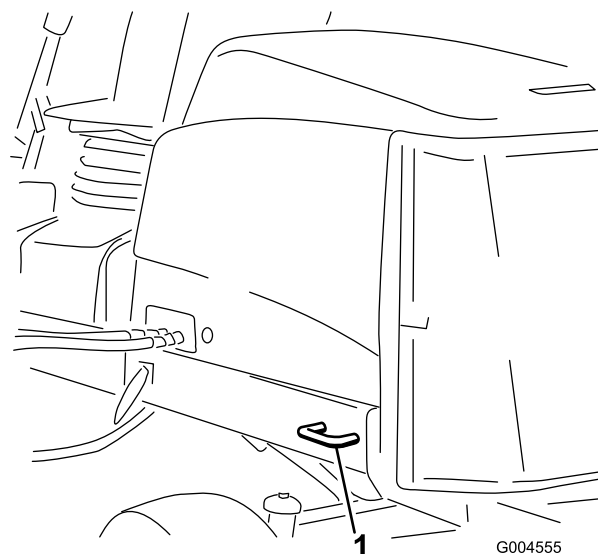


図 23

1. 機体後部のロープ掛けポイント

緊急時の牽引移動

緊急時には、油圧ポンプについているバイパスバルブを開いて本機を前進方向に牽引または押して移動することができます。

重要 トランスミッションを保護するために、牽引または押して移動する時の速度は、3-4.8 km/h 未満としてください。本機を押して或いは引いて移動させる場合には、必ずバイパスバルブを開く必要があります。

1. バイパスバルブはハイドロスタットの左側にある  24。バイパスバルブを右または左に 1.5 回転させると内部でバイパスが形成される。これにより、トランスミッションを破損することなく、機械を押して低速で移動できるようになる。

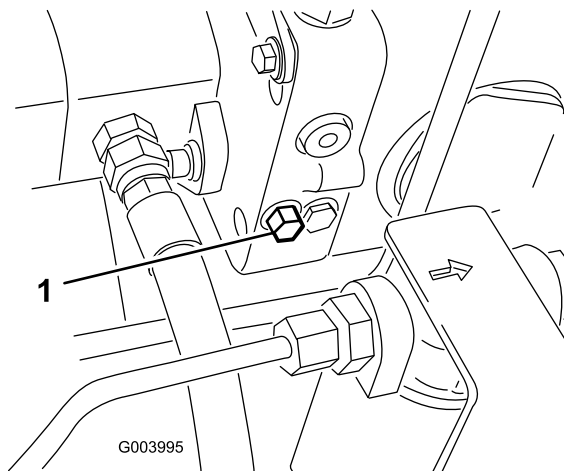


図 24

1. バイパスバルブ

2. エンジンを掛ける時にはバルブを元通りに閉める。ただし、バルブの締め付けトルクが $711\text{N}\cdot\text{m}$ (0.711kg.m = 58ft-lb) を超えないようにすること。

重要 バイパスバルブを開いたままでエンジンを回転させるとトランスミッションがオーバーヒートします。

トレーラへの積み込み

- トレーラやトラックに芝刈り機を積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- 積み込みには、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- 荷台に載せたら、ストラップ、チェーン、ケーブル、ロープなどで機体を確実に固定してください。機体の前後に取り付けた固定ロープは、どちらも、機体を外側に引っ張るように配置してください。

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 1 時間	・ ホイールナットを 94～122N・m (6.2～9.0kg・m = 70～90ft-lb) にトルク締めする。
使用開始後最初の 8 時間	・ オルタネータベルトの磨耗と張りの点検を行う。
使用開始後最初の 10 時間	・ ホイールナットを 94～122N・m (6.2～9.0kg・m = 70～90ft-lb) にトルク締めする。
使用開始後最初の 50 時間	・ エンジンオイルとフィルタの交換を行う。 ・ エンジンの回転数を点検する(アイドル回転とフル・スロットル)。
使用することまたは毎日	・ タイヤ空気圧を点検する。 ・ インタロックスイッチの動作を確認する。 ・ ブレードの停止に要する時間を確認します。 ・ エンジンオイルの量を点検する。 ・ 毎日の作業前に、補助タンクで冷却液の量を点検し、スクリーンとオイルクーラとラジエターにたまったごみを除去してください。 ・ 吸気スクリーン、オイルクーラ、ラジエターを清掃する(悪条件下で使用している場合はより頻繁に)。 ・ 油圧オイルの量を点検してください。 ・ 油圧ライン・油圧ホースにオイル漏れ、ねじれ、支持部のゆるみ、磨耗、フィッティングのゆるみ、風雨や薬品による劣化などが点検する。
50 運転時間ごと	・ ベアリングとブッシュのグリスアップを行う。(車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップする。) ・ バッテリーの点検と清掃を行う。 ・ バッテリーケーブルの接続状態を点検する。
100 運転時間ごと	・ 冷却系統のホースを点検する。 ・ オルタネータベルトの磨耗と張りの点検を行う。
150 運転時間ごと	・ エンジンオイルとフィルタの交換を行う。
200 運転時間ごと	・ 燃料タンクと油圧オイルタンクにたまっている水を抜き取る。
250 運転時間ごと	・ ホイールナットを 94～122N・m (6.2～9.0kg・m = 70～90ft-lb) にトルク締めする。
400 運転時間ごと	・ エアクリーナの整備を行う。(または、エアクリーナのインジケータが赤色になったらその時点で整備を行う。ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときには頻繁な整備が必要となる。) ・ 燃料ラインに劣化や破損、ゆるみが発生していないか点検する。(または1年に1回のうち早く到達した方の時期)。 ・ 燃料フィルタのキャニスタは所定期間に交換してください。 ・ エンジンの回転数を点検する(アイドル回転とフル・スロットル)。
800 運転時間ごと	・ 燃料タンクを空にして内部を清掃します。 ・ 後輪のトーインの点検を行う。 ・ 油圧オイルを交換する。 ・ 油圧フィルタを交換する(整備インジケータが赤に変わったらその時点で)。 ・ エンジンバルブの調整を行う(エンジンのオペレーターズマニュアルを参照のこと)。
長期保管前	・ 燃料タンクを空にして内部を清掃します。
2 年ごと	・ 冷却系統の内部を洗浄し新しい冷却液に交換する。 ・ 油圧オイルタンクを空にして内部を清掃する。 ・ 全部の可動部ホースを交換する。

エンジンの整備に関する詳細は、付属のエンジンマニュアルを参照のこと。

始業点検表

このページをコピーして使ってください。

点検項目	第 週						
	月	火	水	木	金	土	日
インタロックの動作							
ブレーキの動作							
エンジンオイルの量を点検							
燃料・水セパレータの水抜き							
エアフィルタのインジケータの表示。							
ラジエーターとスクリーンの汚れ。							
エンジンからの異常音がないか点検する。 ¹							
運転操作時の異常音							
油圧オイルの量を点検							
エアフィルタのインジケータの表示 ²							
油圧ホースの磨耗損傷を点検							
オイル漏れなど							
タイヤ空気圧を点検する							
計器類の動作							
刈高の調整具合を点検する。							
ブレードのコンディションを点検する							
グリスアップ個所の点検 ³							
塗装傷のタッチアップ修理を行う。							
1. 始動困難、大量の煙、咳き込むような走りなどが見られる場合はグロープラグと噴射ノズルを点検する。 2. エンジンを始動し、オイルが通常の作動温度に達した状態で点検する。 3. 車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップする。							

要注意個所の記録

点検担当者名		
内容	日付	記事
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

重要 エンジンの整備に関する詳細は、付属のエンジンマニュアルを参照のこと。

注 www.Toro.com から、この機械に関する配線図と油圧回路図をダウンロードすることができます。弊社ホームページからマニュアルへのリンクをご活用ください。

定期整備ステッカー

REELMASTER 5010-H/ 5410/5510/5610 & GROUNDMASTER 4300
QUICK REFERENCE AID

CHECK/SERVICE (daily)

1. OIL LEVEL, ENGINE
2. OIL LEVEL, HYDRAULIC TANK
3. COOLANT LEVEL, RADIATOR
4. FUEL/WATER SEPARATOR
5. PRECLEANER – AIR CLEANER
6. RADIATOR SCREEN
7. BRAKE FUNCTION
8. TIRE PRESSURE
9. BELTS (FAN, ALT.)

GREASING -- SEE OPERATOR'S MANUAL

FLUID SPECIFICATIONS/CHANGE INTERVALS

SEE OPERATOR'S MANUAL FOR INITIAL CHANGES.	FLUID TYPE	CAPACITY	CHANGE INTERVAL		FILTER PART NO.
			FLUID	FILTER	
A. ENGINE OIL	SAE 15W-40C4	3.5 QTS* (5010-H) 5.5 QTS.*	150 HRS.	150 HRS.	104-5167
B. HYD. CIRCUIT OIL	ISO VG 46/68	11 GALS.* (5010-H) 15 GALS.*	800 HRS.	SEE INDICATOR 800 HRS.	94-2621** 86-3010
C. AIR CLEANER				SEE INDICATOR	108-3810 (5010-H) (5410) (5510) 108-3812 (5610) (4300)
D. WATER SEPARATOR				400 HRS.	110-9049
E. FUEL TANK	NO. 2-DIESEL	14 GALS.	DRAIN AND FLUSH, 2 YRS.		
F. COOLANT	50/50 ETHYLENE GLYCOL/WATER	5.5 QTS. (5010-H) 7.0 QTS. (5410) (5510) 10.0 QTS. (5610) (4300)	DRAIN AND FLUSH, 2 YRS.		

* INCLUDING FILTER ** EXCLUDES 5010-H

図 25

整備前に行う作業

保守作業開始前の安全確認

- 各部品が良好な状態にあること、ボルトナット類、特にブレード取り付け用のボルト類に問題がないか常に点検してください。読めなくなったステッカーは貼り替えてください。
- 適切な訓練を受けていない人には絶対に機械の整備をさせないでください。
- 調整、清掃、修理などの前に以下を行ってください
 1. 平らな場所に移動する。
 2. 駆動系統をOFFにする。
 3. カッティングユニットを下降させる。
 4. 走行ペダルをニュートラルにする。
 5. 駐車ブレーキを掛ける。
 6. スロットルスイッチを低速アイドル位置にセットする。
 7. エンジンを止め、キーを抜き取る。
 8. すべての動作が停止するのを待つ。
- 駐車、格納など機体から離れる時には必ずカッティングユニットを降下させておいてください。ただし、ユニットを確実にロックできる場合はこの限りではありません。
- 可能な限り、エンジンを回転させながらの整備はしないでください。エンジンを回転させながらの作業が避けられない場合は、手足その他の身体部分や着衣を機械の可動部分、排出部、刈り込みデッキの下などに近づけないように十分注意してください。

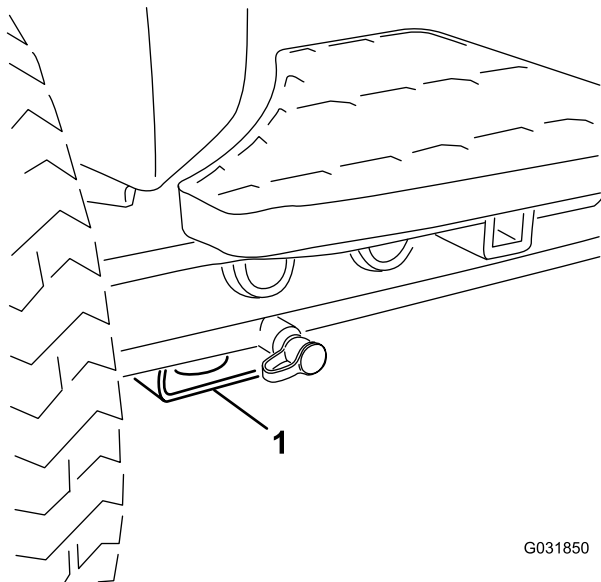
- 使用中に熱くなる部分に触れないよう注意してください。保守、調整、整備などの作業は、安全な温度に下がってから行ってください。
- 必要に応じ、ジャッキなどを利用して機体や機器を確実に支えてください。
- 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。取り外しには十分注意してください。
- 大がかりな修理が必要になった時や補助が必要な時は、Toro 正規代理店にご相談ください。
- 交換部品は必ずトロの純正品をお使いください。他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があります、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

車体をジャッキで持ち上げる場合

注 必要に応じ、ジャッキなどを利用して機体を確実に支えてください。

ジャッキアップ用のポイント

- **機体の前側**各前輪の内側のアクスルチューブの下にある四角いパッド [図 26](#)。



G031850

図 26

1. 車体前部のジャッキアップポイント

- **機体の後側**後アクスルの四角いアクスルチューブ。

潤滑

ベアリングとブッシュのグリスアップ

通常の使用では**50運転時間ごと**に一般用2号リチウム系グリスによる潤滑を行います。車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく**直ちに**グリスアップしてください。

グリスアップ箇所は以下の通りです

- ポンプ駆動シャフトのUジョイント3ヶ所 [図 27](#)

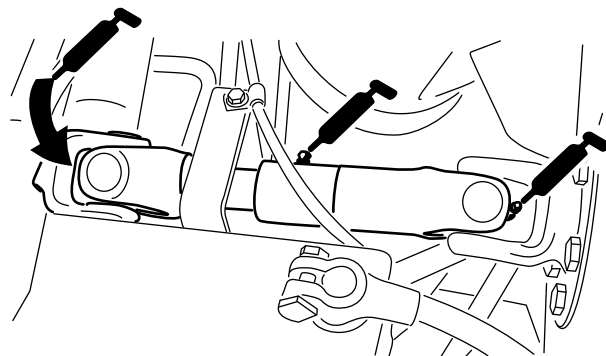
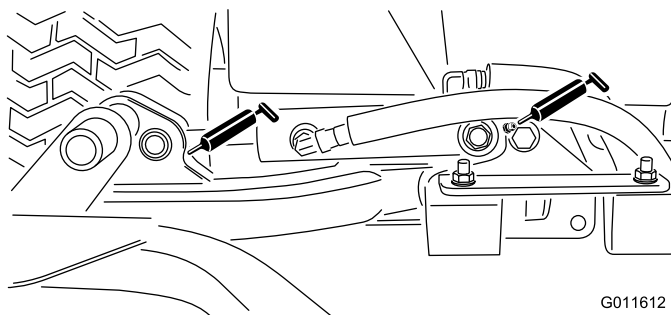


図 27

- 昇降アームのシリンダ各カッティングユニットの2ヶ所 [図 28](#)



G011612

図 28

- 昇降アームのピボット各アームに1ヶ所 [図 28](#)

- カuttingユニットのキャリアフレームのピボット各1 [図 29](#)

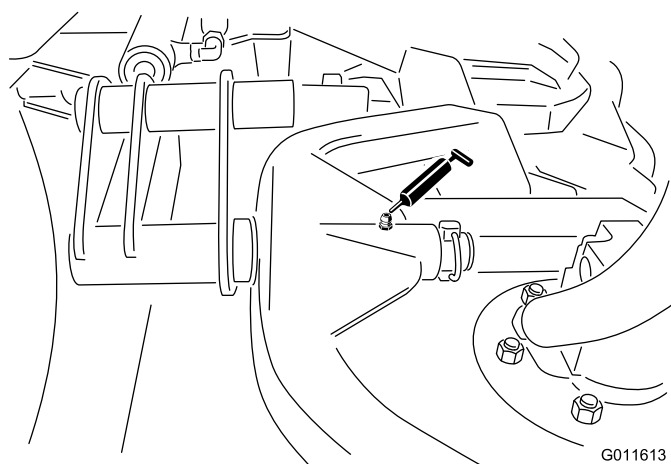


図 29

- アクスルステアリングのピボット1ヶ所 [図 32](#)

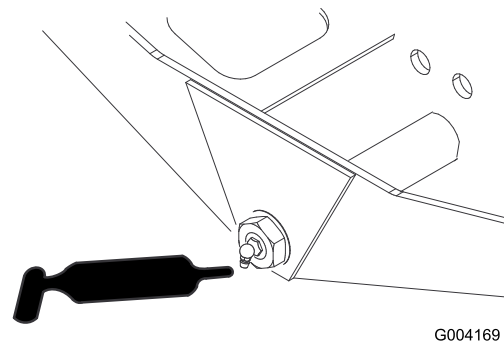


図 32

- 昇降アームのピボットシャフト各アームに1ヶ所 [図 30](#)

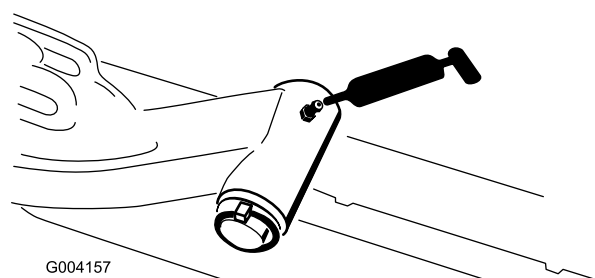


図 30

- ステアリングシリンダのボールジョイント2ヶ所と後アクスル1ヶ所 [図 33](#)

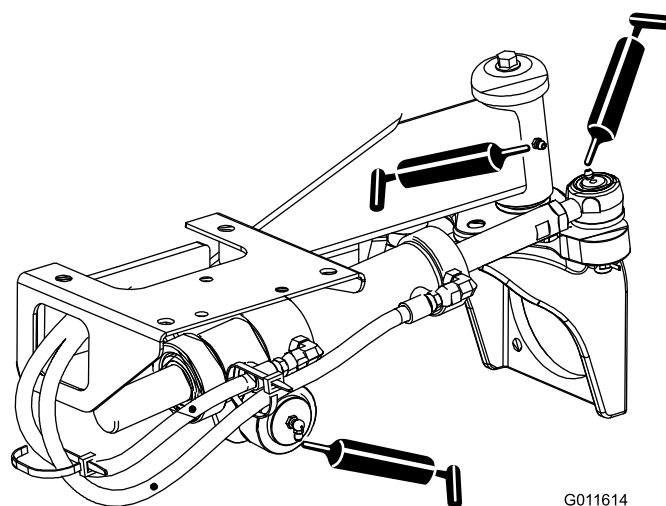


図 33

- 後アクスルのタイロッド2ヶ所 [図 31](#)

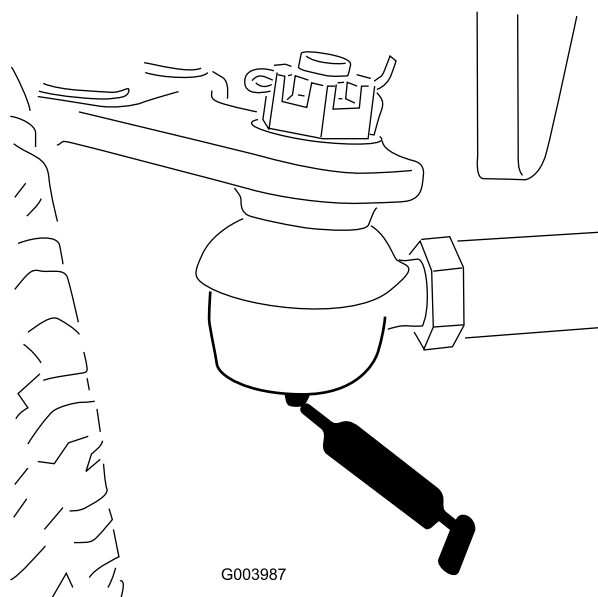


図 31

- ブレーキペダル1ヶ所 ([図 34](#))。

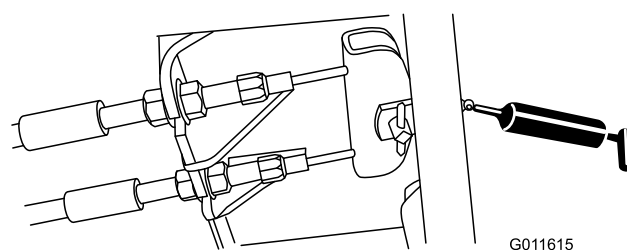


図 34

- カuttingユニットのスピンドルシャフトのベアリングユニット2台に1ヶ所 図 35。

注 どちらのニップルからグリスを注入してもかまいません。スピンドルハウジングの底デッキの下にありますから少量のグリスがはみ出てくるまでポンプでグリスを注入してください。

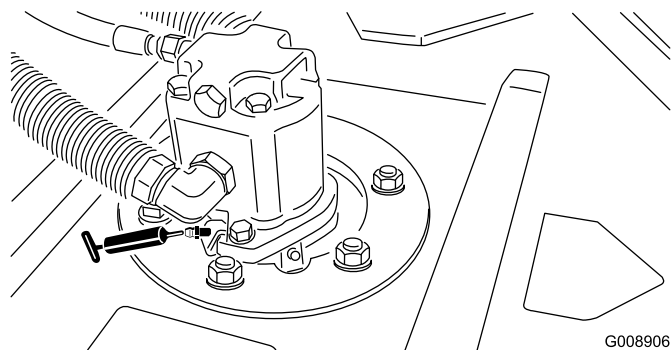


図 35

- 後ローラのベアリング各ユニットに2ヶ所 図 36

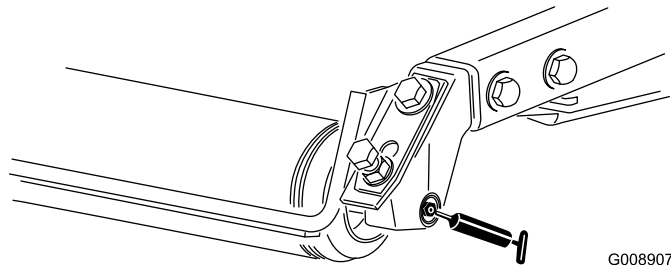


図 36

注 角ローラマウントにあるグリス溝と、角ローラシャフトのグリス穴とを合わせてください。溝と穴をあわせやすいように、ローラシャフトの片側の端部に合印がついています。

エンジンの整備

エンジンの安全事項

エンジンオイルの点検や補充はエンジンを止めて行ってください

エアクリーナの整備

吸気部全体について、リーク、破損、ホースのゆるみなどを点検してください。破損しているエアフィルタは使用しないでください。

エアクリーナのフィルタの整備は、インジケータが赤色になってから行ってください。早めに整備を行っても意味がありません。むしろフィルタを外したときにエンジン内部に異物を入れてしまう危険が大きくなります。

重要 アウトレットバルブが下向き後ろから見たとき、時計の 5:00 と 7:00 の間になるようにカバーを取り付け、ボディと密着させてください。。

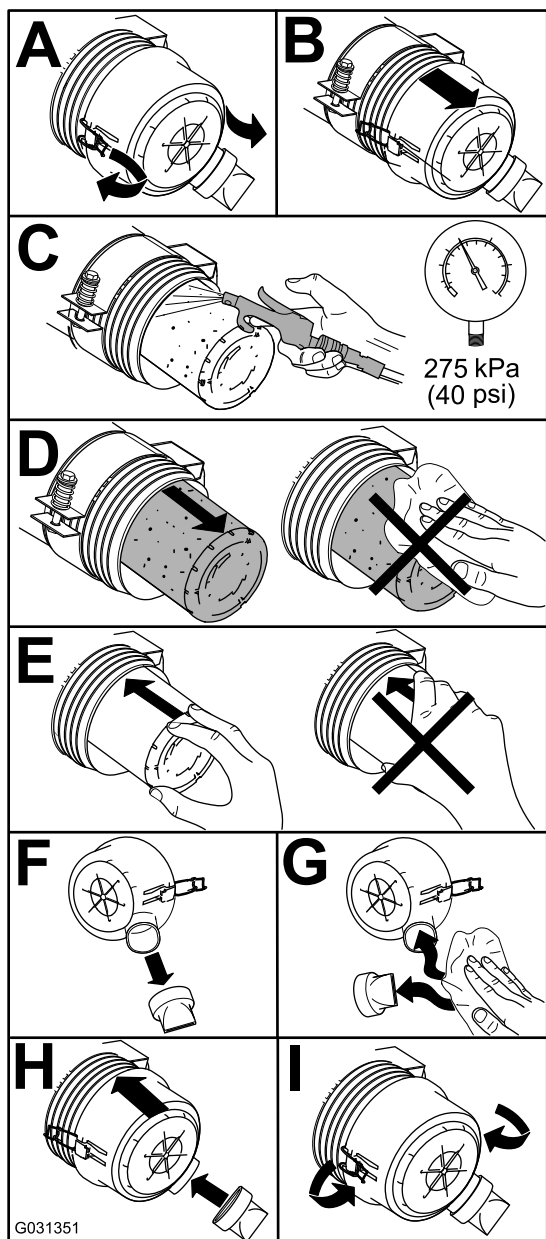
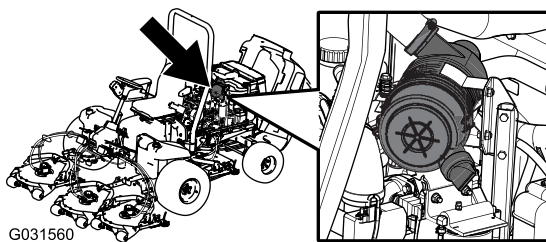


図 37

エンジンオイルについて

エンジンオイルの量を点検する

整備間隔: 使用することまたは毎日

エンジンにはオイルを入れて出荷していますが、初回運転の前後に必ずエンジンオイルの量を確認してください。

油量は約 5.2 リットルフィルタ共です。

以下の条件を満たす高品質なエンジンオイルを使用してください

- API 規格CH-4, CI-4 またはそれ以上のクラス。
- 推奨オイル SAE 15W-40-17.8°C 以上
- 他に使用可能なオイルSAE 10W-30 または 5W-30 全温度帯

トロのプレミアムエンジンオイル10W-30 または 5W-30を代理店にてお求めいただくことができます。

1. 平らな場所に駐車し、エンジンを停止させ、駐車ブレーキを掛けてキーを抜き取る。
2. エンジンオイルの量を確認する 図 38。

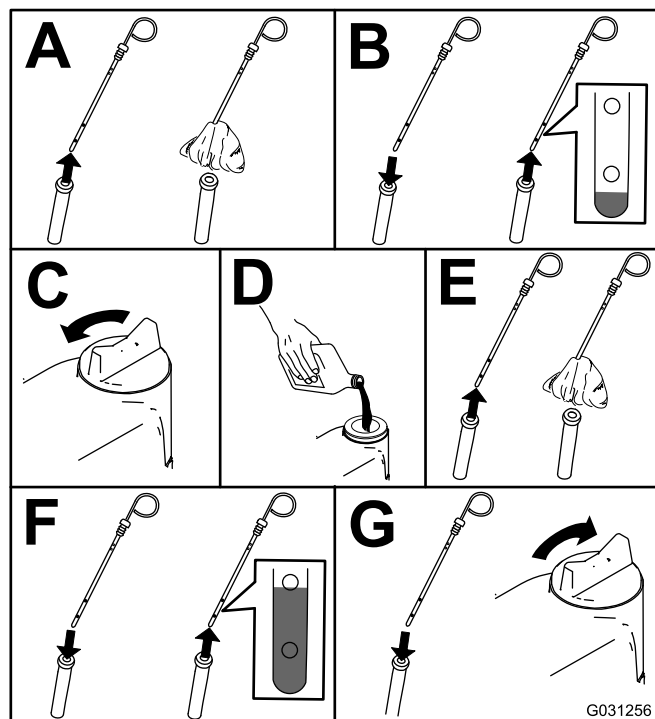
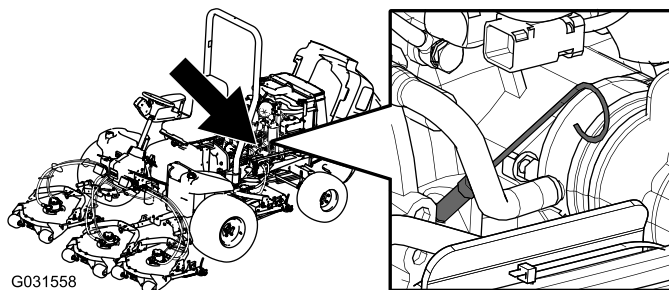


図 38

重要 エンジンオイルの量が常時ゲージの上限と下限との間にあるよう、気をつけて管理してください。オイルの入れすぎもオイルの不足も、エンジンの不調や故障の原因となります。

エンジンオイルとフィルタの整備

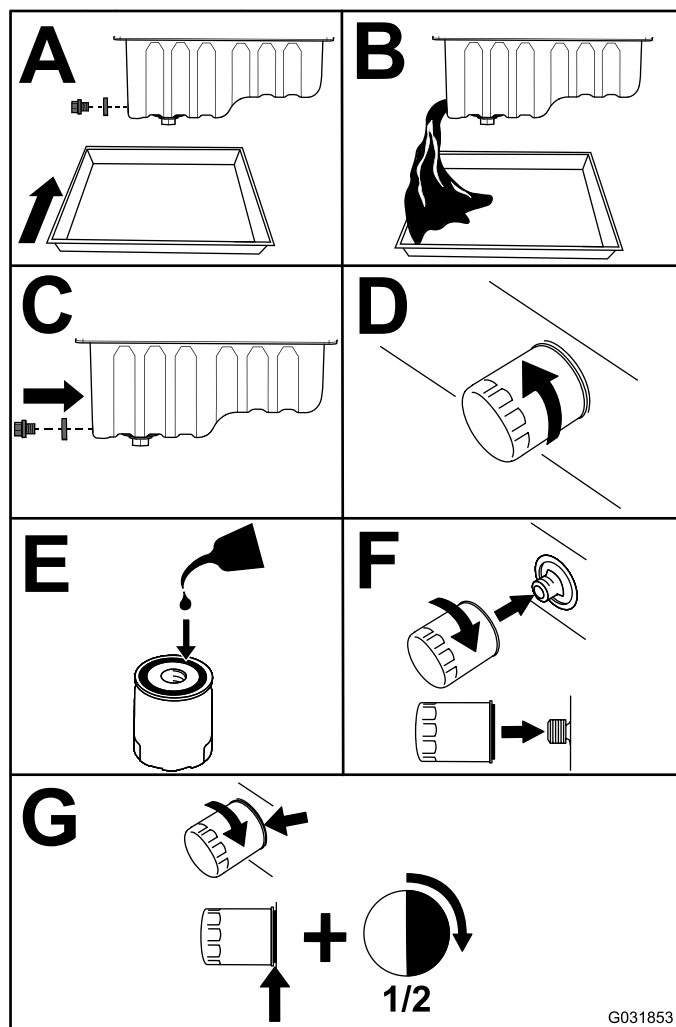
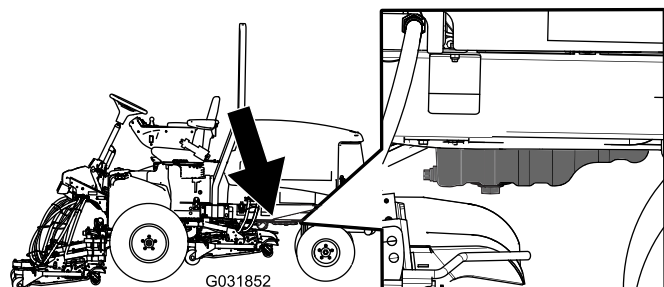


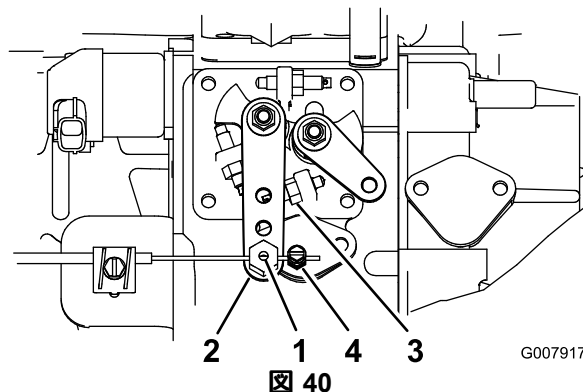
図 39

重要 フィルタを締め付けすぎないでください。

クランクケースにオイルを入れる [エンジンオイルの量を点検する](#) (ページ 38)を参照。

スロットルの調整

1. スロットルレバーを、一番前の位置まで倒し、そこから引き戻して、スロットの端から約 3mm ほど手前にセットする
2. 燃料噴射ポンプのレバーの隣にあるスロットルケーブルのコネクタをゆるめる [図 40](#)。



1. スロットルケーブルのピボット
2. 噴射ポンプのレバーアーム
3. ハイアイドルストップ
4. スロットルケーブルのコネクタ

3. インジェクションポンプレバーのアームをハイアイドルストップに当てる [図 40](#)。
4. スロットルケーブルを引いてたるみをなくした状態にし、スロットルケーブルコネクタを締め付ける。

注 締めるとき、ケーブルコネクタが、燃料噴射ポンプレバーのアーム上で自由に回転できることを確認してください。

5. 運転中にスロットルの設定が変わってしまう場合には、スロットルレバーにケーブルを固定しているロックナットの締め付けトルクを強くしてください。

燃料系統の整備

燃料システムの整備

燃料タンクの内部清掃

整備間隔: 800運転時間ごと

長期保管前

燃料系統が汚染された時や、マシンを長期にわたって格納する場合はタンクを空にして内部を清掃してください。タンクの清掃にはきれいな燃料を使用してください。

燃料ラインとその接続の点検

劣化・破損状況やゆるみが発生していないかを調べてください。

ウォーターセパレータの整備

整備間隔: 400運転時間ごと

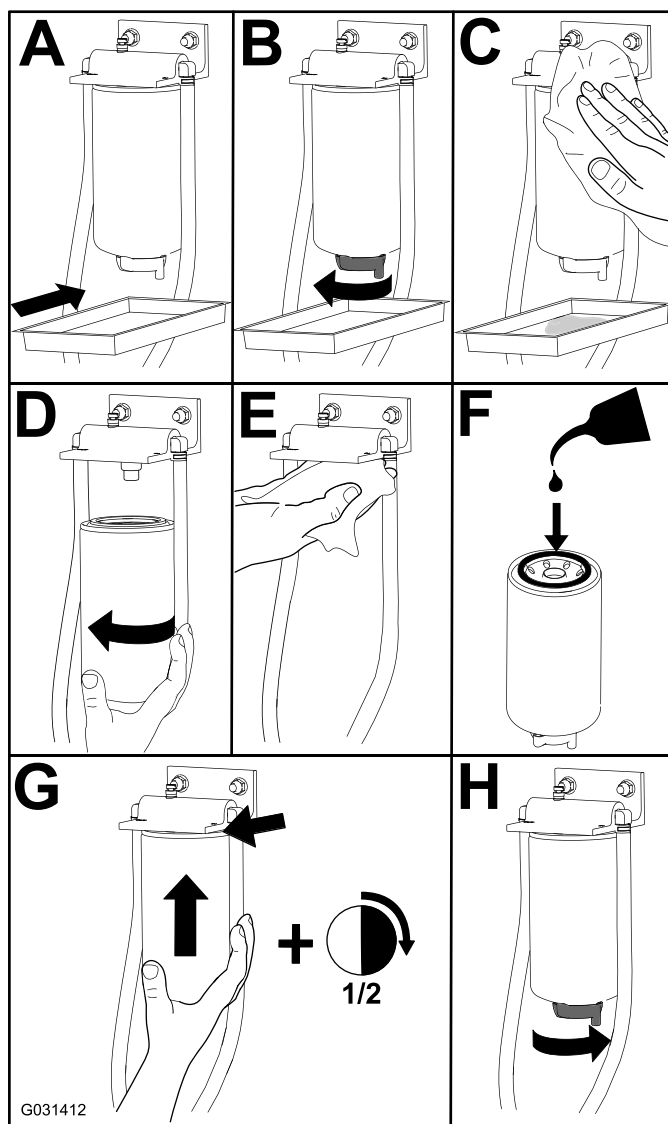
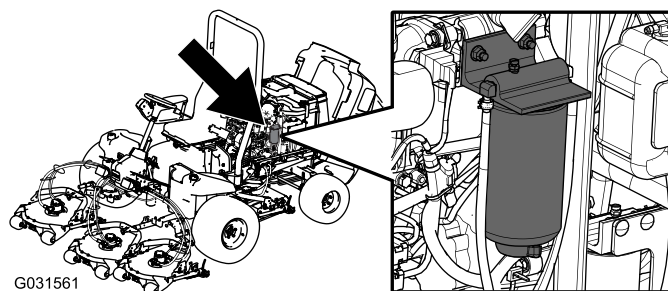


図 41

燃料供給チューブの整備

燃料タンク内部にある燃料供給チューブには、燃料系統に異物が入るのを防止するスクリーンがついています。必要に応じて、このチューブを外してスクリーンを清掃してください。

燃料インジェクタからのエア抜き

注 この手順は、燃料システムからの通常のエア抜きを行ってもエンジンが始動できないときに行うものです。通常のエア抜きについては、**燃料系統からのエア抜き (ページ 24)** を参照してください。

1. 燃料噴射ポンプの No.1 インジェクタノズル(図 42)へのパイプ接続部をゆるめる。

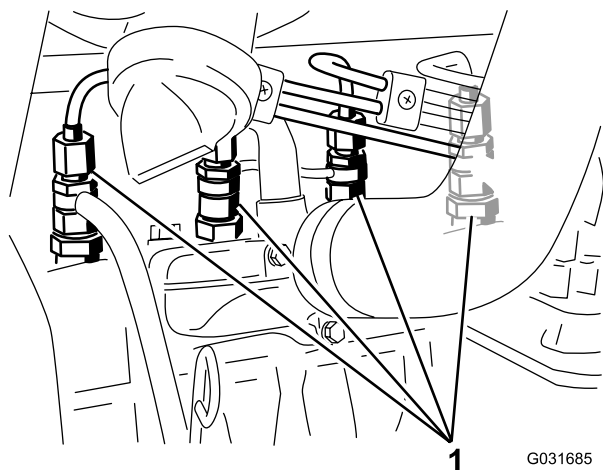


図 42

G031685

1. 燃料インジェクタ

2. 始動キーをON位置に回し、接続部から流れ出る燃料が泡立たなくなるのを待つ。
3. エアが抜けて燃料のみが流れ出てくるようになったらキーをOFFに戻す。
4. パイプをしっかり締め付ける。
5. 残りのノズルについても上記 1 4 の手順でエアを抜く。

電気系統の整備

電気系統に関する安全確保

- マシンの整備や修理を行う前に、バッテリーの接続を外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラスを先に接続し、次にマイナスを接続してください。
- バッテリー液は毒性があり、皮膚に付くとやけどを引き起こします。皮膚、目、衣服に付着させないように注意してください。バッテリーに関わる作業を行うときには、顔や目や衣服をきちんと保護してください。
- バッテリーからは爆発性のガスが発生します。バッテリーにタバコの火、火花などの火気を近づけないでください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。
- 電装品の近くの洗浄には高圧の水を使用しないでください。

警告

カリフォルニア州 第65号決議による警告

バッテリーの電極部や端子などの部分には鉛や鉛含有物質が含まれており、カリフォルニア州では、これらの物質が癌や先天性異常の原因となるとされている。
取り扱い後は手を洗うこと。

バッテリーの整備

注 洗浄する場合は、まず重曹と水で全体を洗います。次に真水ですすぎます。

ヒューズの交換

全部で8本のヒューズを使用しています。ヒューズブロック 図 43 は、コントロールアームのアクセスパネルの裏側にあります。

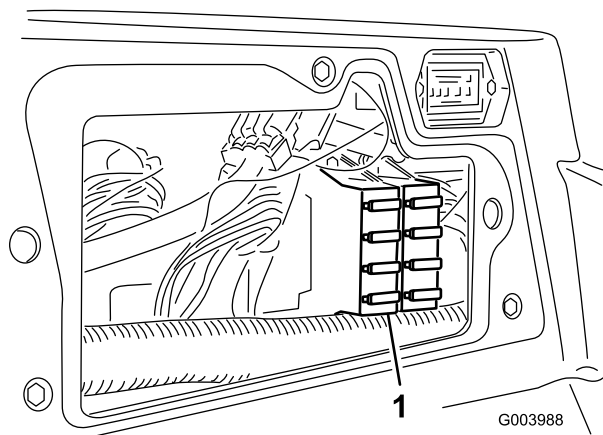


図 43

1. ヒューズブロック

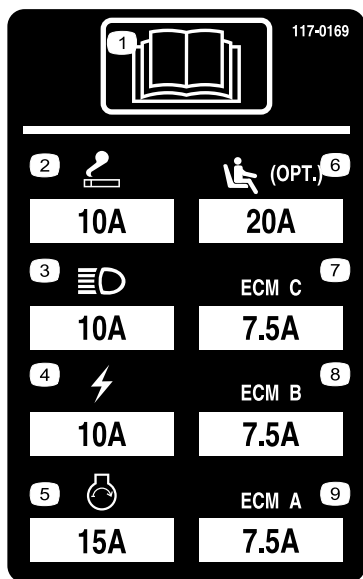


図 44

走行系統の整備

走行ドライブのニュートラル調整

走行ペダルから足をはなしても本機が動きだすようでしたら調整が必要です。調整が必要な場合は、以下の要領で行います

1. 平らな場所に駐車し、カッティングデッキを下降させ、エンジンを停止させる。
2. 機体をジャッキアップして全部の車輪を床から浮かす。落下事故防止のために、ジャッキスタンドや支持ブロックなどを使って機体をサポートする。
3. ハイドロスタットの右側にあるトラクション調整カムロックナットをゆるめる 図 45。

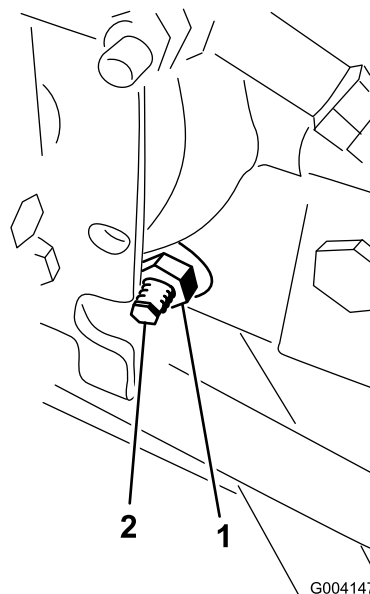


図 45

1. ロックナット

2. トラクション調整カム

警告

トラクション調整カムの最終調整は、エンジンを回転させながら行う必要がある。危険を伴う作業であるから、

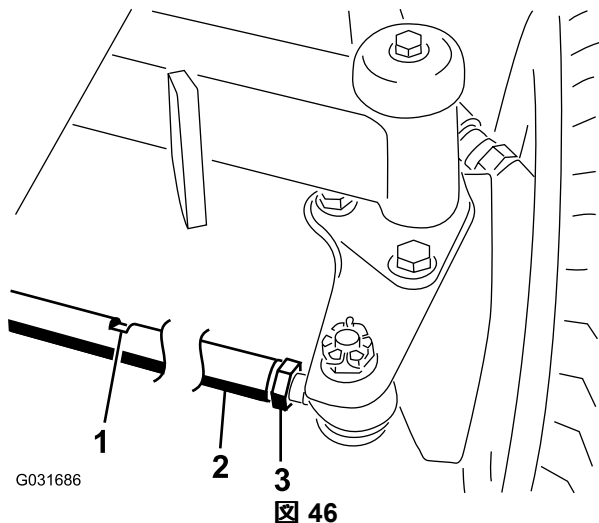
マフラーなどの高温部分や回転部、可動部に顔や手足を近づけぬよう十分注意すること。

4. 始動キーをON位置に回し、エンジンを始動し、車輪の回転が止まるところまで六角カムを回す。
5. ロックナットを締めて調整を固定する。
6. キーをOFF位置に回し、ジャッキスタンドを外して機体を床面に降ろす。
7. 試験運転で調整クリーピングがなくなっていることを確認する。

後輪のトーインの調整

1. ハンドルを操作して後輪を真っ直ぐ前に向ける。
2. 各タイロッド  の端についているジャムナットをゆるめる。

注 タイロッド外側に溝が切ってあるところのねじは左ねじですから注意してください。



1. レンチ用のスロット
2. タイロッド
3. ジャムナット

3. レンチ用スロットを利用して、タイロッドを回転させる。
4. 後輪の前と後ろで、左右のタイヤの中央線間距離を測るアクスルの高さ位置で計測。

注 後ホイールの前側で測定した距離が、後側での測定よりも 6 mm 小さければ適正である。

5. 必要に応じてこの調整操作を繰り返す。

冷却システムの整備

冷却システムを点検する

整備間隔: 使用するとまたは毎日—毎日の作業前に、補助タンクで冷却液の量を点検し、スクリーンとオイルクーラとラジエターにたまったごみを除去してください。

ラジエターの冷却液は水とエチレングリコール不凍液の 50/50 混合液です。容量は 9.5 リットルです。

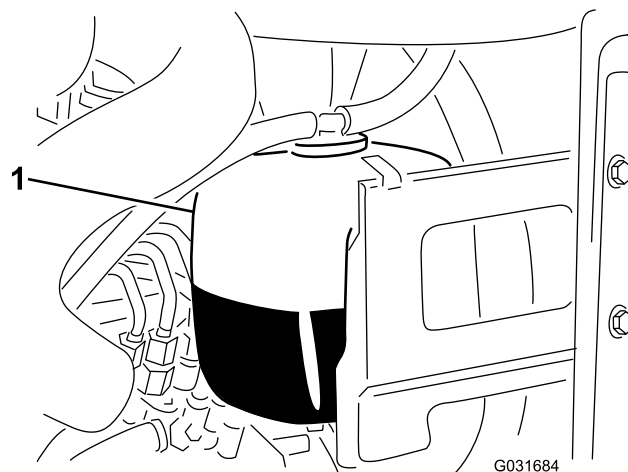
▲ 注意

エンジン停止直後にラジエターのキャップを開けると、高温高圧の冷却液が吹き出してやけどを負う恐れがある。

- エンジン回転中はラジエターのふたを開けないこと。
- キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。

1. 液量の点検は補助タンクで行う ()。

注 タンク側面についている 2 本のマークの間にあれば適正である。



1. 補助タンク

2. 冷却液が不足している場合には、補助タンクに補給する。入れすぎないこと。
3. 補助タンクのキャップを取り付けて終了。

冷却部の清掃

1. キーを OFF 位置に回してキーを抜き取る。
2. エンジン部を丁寧に清掃する。
3. クランプをゆるめ、後スクリーンを開く [図 48](#)。

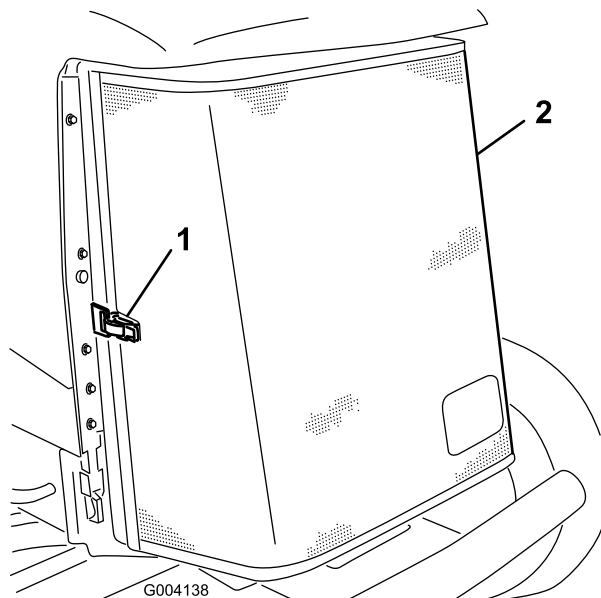


図 48

1. 後部スクリーンのラッチ
2. 後部スクリーン

4. スクリーンを圧縮空気ですでいに洗淨する。
5. オイルクーラのラッチを内側に倒してオイルクーラを外す [図 49](#)

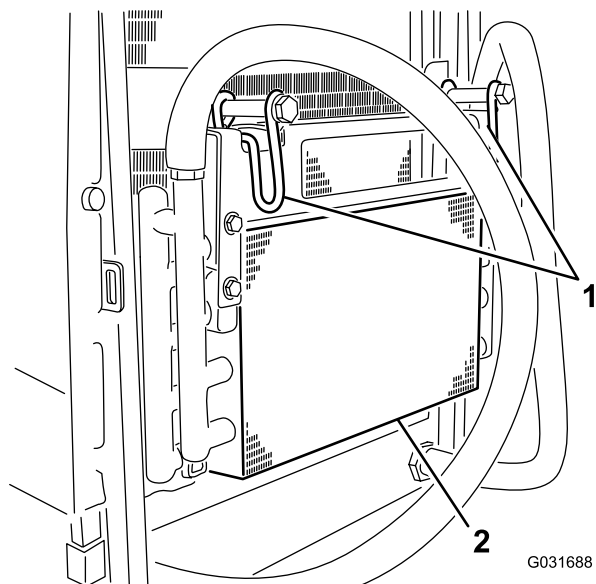


図 49

1. オイルクーラのラッチ
2. オイルクーラ

6. オイルクーラとラジエターの裏表を [図 50](#) 圧縮空気ですでいに清掃する。

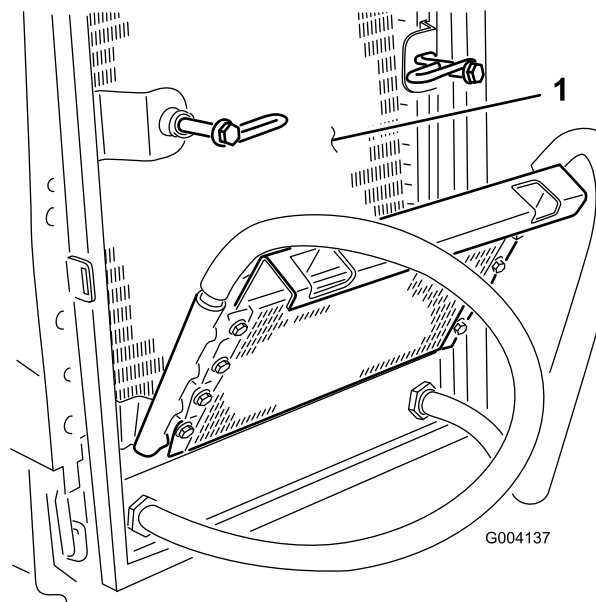


図 50

1. ラジエター

7. オイルクーラを元に戻し、ラッチで確実に固定する。
8. スクリーンを閉じ、ラッチを掛ける。

ブレーキの整備

駐車ブレーキの調整

ブレーキペダルの「遊び」[図 51](#)が 2.5cm 以上となったり、強く踏み込まないとブレーキの効きが悪いと感じられるようになったら、調整を行ってください。遊びとは、ブレーキペダルを踏み込んでから抵抗を感じるまでのペダルの行きしろを言います。

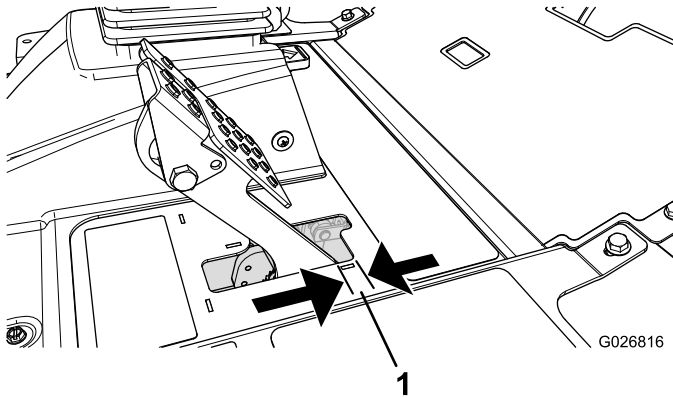


図 51

1. 遊び

注 調整の前と後に、ホイールモータのバックラッシュギアのカタを利用してドラムを前後にゆすり、ドラムが何にも接触していないことを確認してください。

1. 遊びを減らすブレーキを締めるには、ブレーキケーブルのネジ山の前ナットをゆるめ、後ろのナットを締める ([図 52](#))。

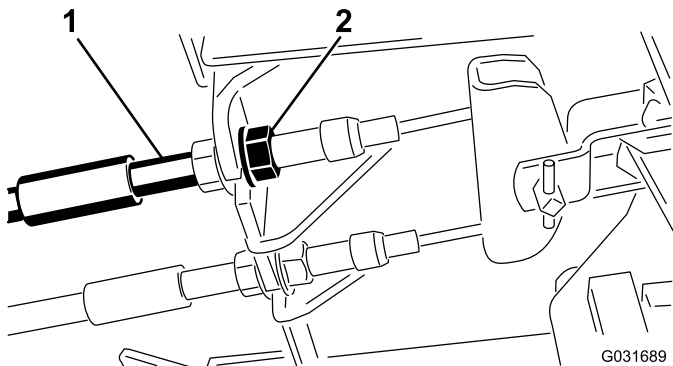


図 52

1. ブレーキケーブル
2. 前ナット

2. 後ナットを締めてケーブルを後方に移動させて、ホイールがロックする前のブレーキペダルの遊び[図 51](#)が 6.312.7mm なるように調整する。
3. 前ナットを締め、左右のケーブルが同じように動作することを確認する。締め付けを行うときに、ケーブルの鞘を回転させないように注意すること。

駐車ブレーキのラッチの調整

駐車ブレーキがかからない、ラッチがかからない状態になったらブレーキ爪の調整が必要です。

1. 駐車ブレーキのツメをフレームに固定しているネジ2本をゆるめる [図 53](#)。

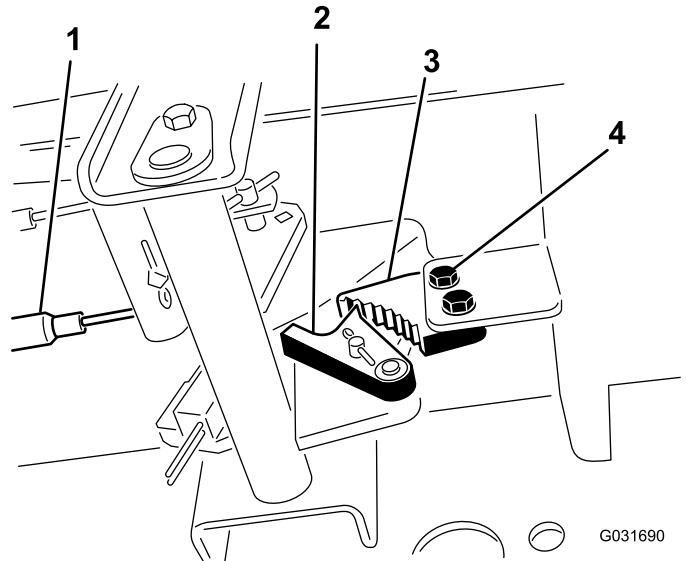


図 53

1. ブレーキケーブル
2. ブレーキの戻り止め
3. 駐車ブレーキの爪
4. ねじ2本

2. ブレーキのツメが戻り止めに完全に掛かるまで駐車ブレーキペダルを前に踏み込む [図 53](#)。
3. ねじ2本を締めて調整を固定する。
4. ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除する。
5. 調整を確認し、必要に応じて再調整する。

ベルトの整備

オルタネータベルトのテンション調整

1. フードを開ける。
2. オルタネータ側プーリとクランクシャフト側プーリ間の中央部でオルタネータベルト(図 54)を指で10 kg程度の力で押してベルトの張りを点検する。

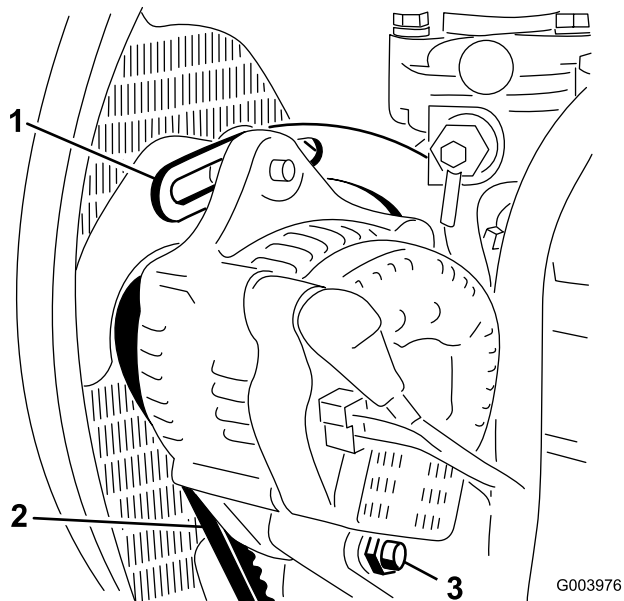


図 54

1. ブレース
2. オルタネータベルト
3. ピボットボルト

注 ベルトのたわみが 11mm 程度あれば適正とする。

3. たわみの量が適正でない場合は手順 4 へ進む。適正であれば調整は不要である。
4. ブレースをエンジンに固定しているボルト(図 54)と、オルタネータをブレースとピボットボルトに固定しているボルトをゆるめる。
5. オルタネータとエンジンの間にバールを差し込み、オルタネータの位置を変えて必要な張りを出す。
6. 調整が終わったらそれぞれのボルトを締めて調整を固定する。

油圧系統の整備

油圧オイルの量を点検する

整備間隔: 使用することまたは毎日

油圧オイルタンクに約 56.7 リットルの高品質油圧オイルを満たして出荷しています。推奨オイルの銘柄を以下に示します

Toro プレミアム・オールシーズン油圧作動液 (18.9 リットル缶または208 リットル缶。パーツカタログまたは Toro 代理店でパーツ番号をご確認ください。

代替製品 Toro のオイルが入手できない場合は、以下に挙げる特性条件および産業規格を満たすオイルを使用することができます。合成オイルの使用はお奨めできません。オイルの専門業者と相談の上、適切なオイルを選択してください

注 信頼におけるメーカーの製品以外はお使いにならないでください。不適切なオイルの使用による損害については弊社は責任を持ちかねます。

高粘度インデックス低流動点アンチウェア油圧作動液, ISO VG 46

物性

粘度, ASTM D445	cSt @ 40°C 44 - 48cSt @ 100°C 7.9-8.5
粘性インデックス ASTM D2270	140 160
流動点, ASTM D97	-37°C-45°C

産業規格

ヴィッカーズ I-286-S 品質レベル, ヴィッカーズ M-2950-S 品質レベル, デニソン HF-0

重要 ISO VG 46 マルチグレードオイルは、広い温度範囲で優れた性能を発揮します。通常の外気温が高い18 °C- 49 °C 熱帯地方では、ISO VG 68 オイルのほうが適切と思われます。

プレミアム生分解油圧オイル— Mobil EAL EnviroSyn 46H

重要 Mobil EAL EnviroSyn 46H は、トロ社がこの製品への使用を認めた唯一の合成生分解オイルです。このオイルは、トロ社の油圧装置で使用しているエラストマーに悪影響を与えず、また広範囲な温度帯での使用が可能です。このオイルは通常の鉱物性オイルと互換性がありますが、十分な生分解性を確保し、オイルそのものの性能を十分に発揮させるためには、通常オイルと混合せず、完全に入れ替えて使用することが望まれます。この生分解オイルは、モービル代理店にて 19 リットル缶または208 リットル缶でお求めになれます。

注 多くの油圧オイルはほとんど無色透明であり、そのためオイル洩れの発見が遅れがちです。油圧オイル用の着色剤20ml 瓶をお使いいただくと便利です。

1瓶で1523リットルのオイルに使用できます。パーツ番号は44-2500。ご注文はToro 代理店へ。

1. 平らな場所に駐車し、刈り込みデッキを下降させ、エンジンキーをOFF位置にする。
2. 油圧オイルの量を点検する 図 55。

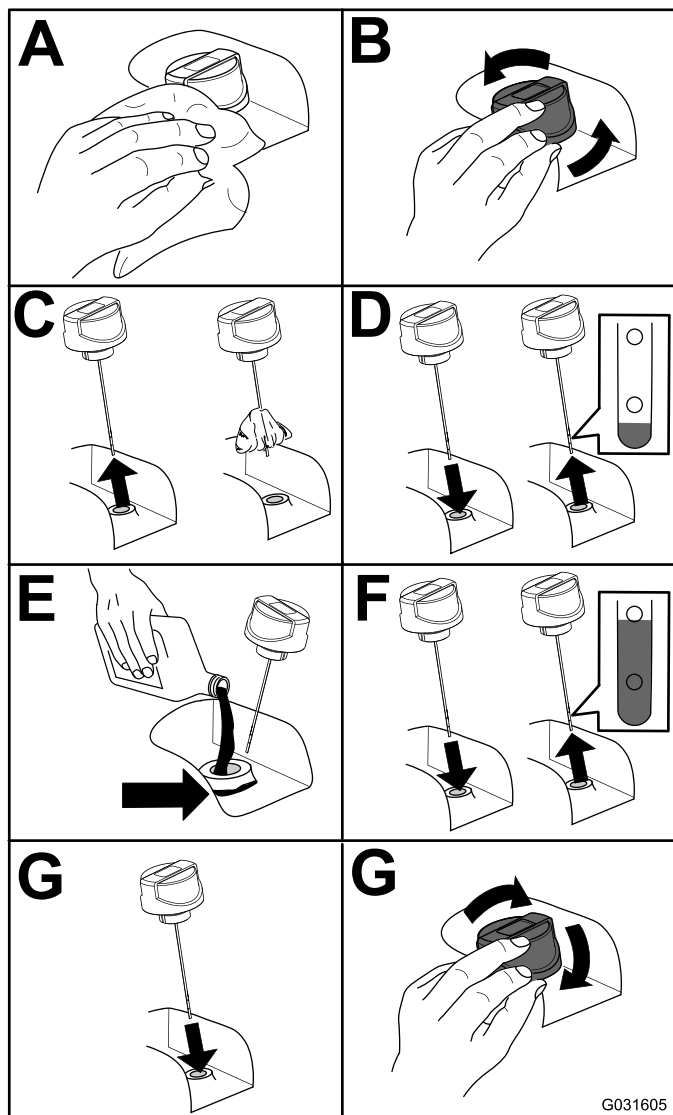
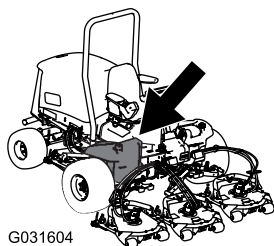


図 55

油圧オイルの交換

整備間隔: 800運転時間ごと

オイルが汚染されてしまった場合は油圧系統全体を洗浄する必要がありますので弊社代理店にご連

絡ください。汚染されたオイルは乳液状になったり黒ずんだ色になったりします。

1. キーをOFF位置に回し、フードを開く。
2. タンク 図 56 の下についているフィッティングの下に、オイルを受ける大型の容器を置く。

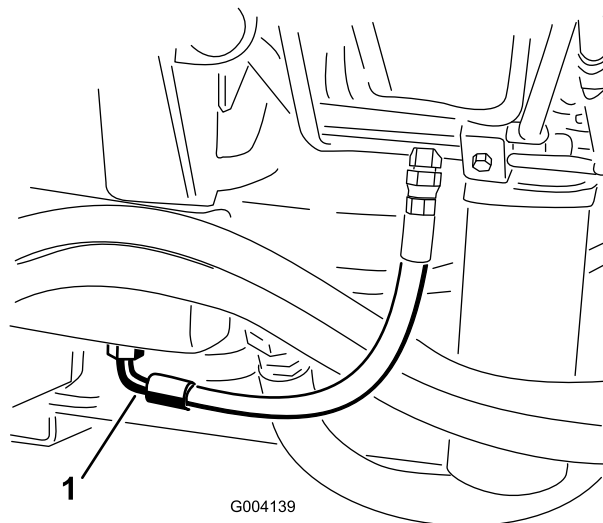


図 56

1. ホース

3. フィッティングからホースを外し、流れ出すオイルを容器に受ける。
4. オイルが全部流れ出たらホースを元通りに接続する。
5. 油圧オイルタンクに約56.7リットルの油圧オイルを入れる 油圧オイルの交換 (ページ47) を参照。

重要 指定された銘柄のオイル以外は使用しないでください。他のオイルを使用するとシステムを損傷する可能性があります。

6. タンクにキャップを取り付ける。
7. キーをON位置にしてエンジンを始動し、すべての油圧機器を操作して油圧オイルをシステム全体に循環させ、オイル漏れがないか点検する。
8. 始動キーをOFF位置に回す
9. 油量を点検し、足りなければディップスティックのFULLマークまで補給する。

重要 入れすぎないように注意すること。

油圧フィルタの交換

インジケータに油圧オイルフィルタの交換時期が表示されます 図 57。エンジン回転中にこのインジケータを点検したとき、表示が緑色の領域にあれば交換は不要です。表示が赤色の領域に入ったら、油圧フィルタを交換してください。

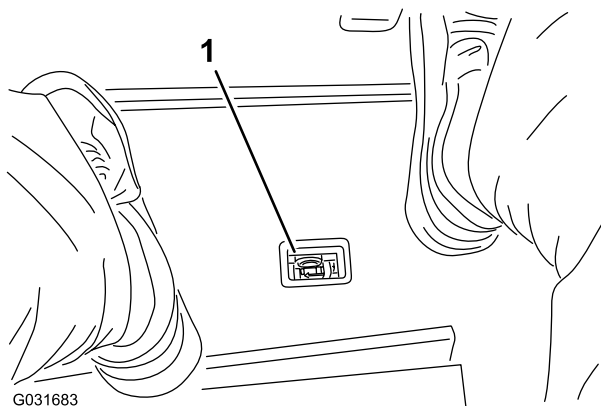


図 57

1. 油圧フィルタ整備インジケータ

重要 純正品以外のフィルタを使用すると関連機器の保証が適用されなくなる場合があります。

1. 平らな場所に駐車し、刈り込みデッキを下降させ、エンジンキーをOFF位置にし、駐車ブレーキを掛け、キーを抜き取る。
2. 油圧フィルタをふたつとも交換する 図 58。

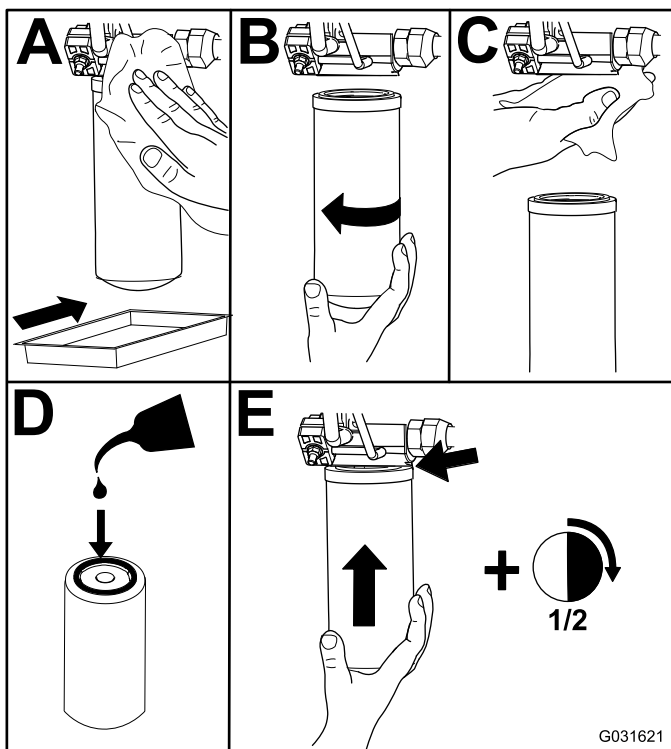
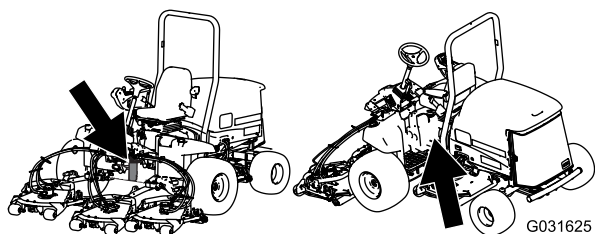


図 58

3. キーをON位置に回し、エンジンを始動し、約2分間運転して内部のエアをパージする。
4. キーをOFF位置に回し、オイル漏れがないか点検する。

油圧ラインとホースの点検

整備間隔: 使用することまたは毎日

異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

⚠ 警告

高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こす。

- 油圧を掛ける前に、油圧ラインやホースに傷や変形がないか接続部が確実に締まっているかを確認する。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけない。
- リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。
- 油圧関係の整備を行う時は、内部の圧力を確実に解放する。
- 万一、噴射液が体内に入ったら、直ちに専門医の治療を受ける。

油圧システムの圧力試験

油圧回路の油圧試験を実施できるように、テストポートがあります必要に応じToro代理店にご相談ください。

油圧バルブソレノイドの機能

以下に油圧マニホールドにあるソレノイドの機能を示します。各機能ともソレノイドに通電したときに行われます。

ソレノイド	機能
PRV2	刈り込み回路前
PRV1	刈り込み回路後
PRV	カッティングデッキの昇降
S1	カッティングデッキ下降
S2	カッティングデッキ下降

刈り込みデッキの保守

カッティングデッキの取り外し

1. 平らな場所に駐車し、刈り込みデッキを床まで下降させ、エンジンキーをOFF位置にし、駐車ブレーキを掛ける。
2. デッキから油圧モータを外す [図 59](#)。異物がつかないように、スピンドル上部にはカバーを掛けておく。

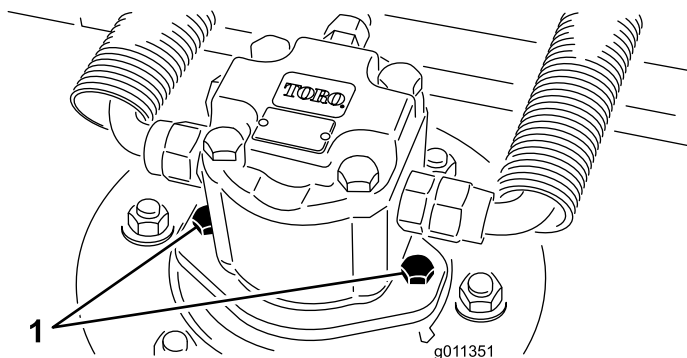


図 59

1. モータ取り付けねじ

3. デッキのキャリアフレームを昇降アームのピボットピンに固定しているリンチピンを外す [図 60](#)。

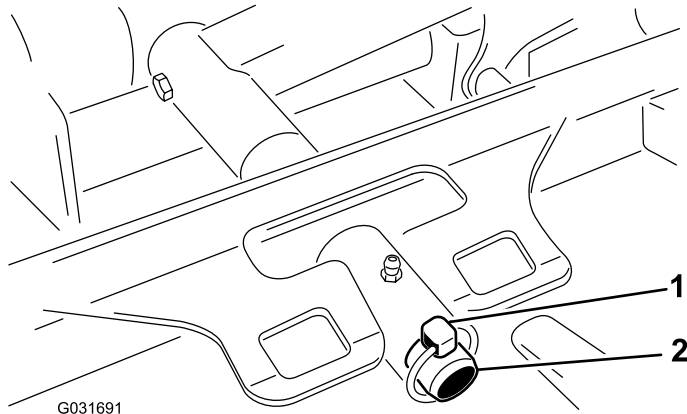


図 60

1. リンチピン
2. 昇降アームのピボットピン

4. トラクションユニットからカッティングデッキを引き出す。

トラクションユニットへのカッティングデッキの取り付け

1. 平らな場所に駐車し、キーをOFF位置に回す。
2. 刈り込みデッキをトラクションユニットの前に置く。
3. デッキのキャリアフレームを昇降アームのピボットピンに入れ、リンチピンで固定する [図 60](#)。
4. デッキに油圧モータを取り付ける [図 59](#)。Oリングを忘れずに、また、損傷させないように注意して取り付ける。
5. スピンドルにグリスを注入する。

ブレードの保守

刈り込みブレードについての安全事項

▲ 危険

磨耗の進んだブレードや破損したブレードは、回転中にちぎれて飛び出す場合があります、これが起こるとオペレータや周囲の人間に多大の危険を及ぼし、最悪の場合には死亡事故となる。また、破損したブレードを修理すると安全規格を満たさなくなる恐れがある。

- ブレードが磨耗や破損していないか定期的に点検すること。
- 曲がったブレードを元に戻そうとしたり、欠けや割れの出たブレードを溶接で修理したりしないこと。
- 磨耗したり破損したりしたブレードは交換すること。
- ブレードを点検する時には安全に十分注意してください。ブレードをウェスでくるむか、安全手袋をはめ、十分に注意して取り扱ってください。ブレードは修復したりせず、必ず新品に交換してください。
- 複数のブレードを持つ機械では、つのブレードを回転させると他も回転する場合がありますから注意してください。

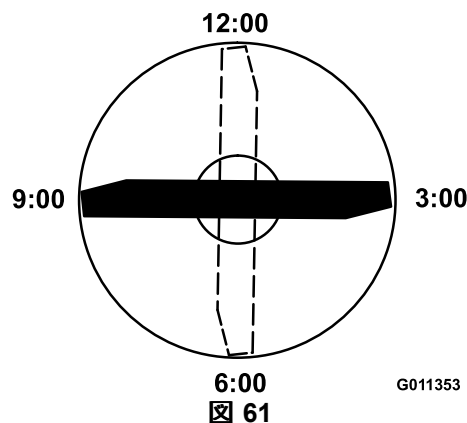
ブレード回転面の管理

刈り込みデッキは、刈高 50mm、ブレードのレーキ設定 7.9mm に設定して出荷されています。また、左右の刈高の差が、 $\pm 0.7\text{mm}$ の範囲になるように設定されています。

刈り込みデッキは、ブレードが当たってもチェンバに変形が発生しない強度を持っています。しかし、硬いものがぶつかった後には、ブレードに破損が発生していないか、また、ブレードの回転面に狂いが発生していないか、必ず点検してください。

ブレード回転面の検査

1. デッキから油圧モータを外し、カッティングデッキをトラクタから外す。
2. ホイストを使うか、2人がかりで、デッキを平らなテーブルの上に載せる。
3. ブレードの片方の端にマジックなどで印をつける。以後、高さの点検はすべてこの印のついた側で行う。
4. ブレードの印の付いているほうの端部を12時の位置車両進行方向に向け図 61、作業台の表面からブレードの切っ先までの高さを測定する。



5. 印の付いている端部を3時の位置と9時の位置に向けて図 61それぞれ高さを測定する。
6. 12時位置での測定値を、刈り高の設定値と比較する。差が 0.7mm 以内であれば適正とする。3時および9時位置での高さが、12時位置での高さよりも 1.66.0mm 高く、3時および9時位置での相互の高さの差が 1.66.0mm 以内であれば適正である。

注 上記の範囲から外れている場合には、[ブレード回転面の調整 \(ページ 50\)](#)へ進む。

ブレード回転面の調整

まず前を調整する度に1つのブラケットを調整する。

1. 刈り高ブラケット前、左、右のうち1つをデッキのフレームから外す図 62。
2. デッキフレームとブラケットとの間に厚さ 1.5mm または 0.7mm のシム、場合によってはこれらの両方を挿入して、希望する刈高を達成する図 62。

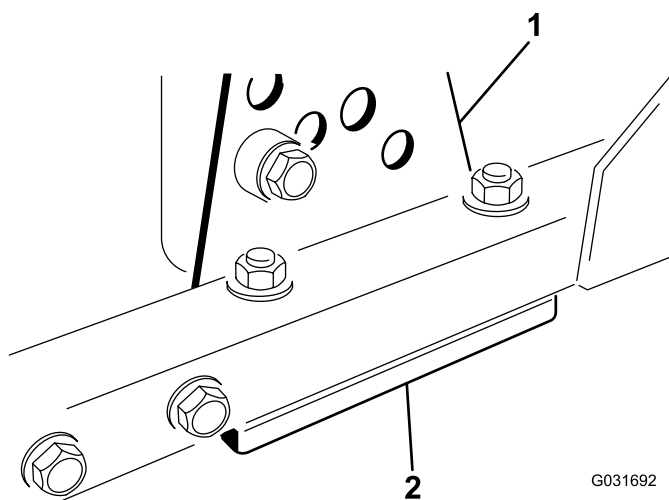


図 62

1. 刈り高ブラケット
2. シム

3. 余ったシムを刈り高ブラケットの下に入れ、刈り高ブラケットをデッキのフレームに取り付ける。

4. ソケットヘッドボルト/スペーサとフランジナットを固定する。

注 ソケットヘッドボルトとスペーサとは、デッキフレームの内側に落ちないようにねじ山用の接着剤で接着しています。

5. 12時位置での高さを測定し、必要に応じて調整を行う。
6. 左右の刈り高ブラケットの両方ともに調整が必要か、片方のみの調整でよいか判断する。3時位置または9時位置が、新しい前位置の高さよりも1.66.0mm高い場合には、その側での調整は不要である。反対側の高さを調整して、正しい側の高さ1.66.0mmの範囲になるようにする。
7. ステップ1~3を繰り返して、左右の刈り高ブラケットを調整する。
8. キャリッジボルトとフランジナットを固定する。
9. もう一度、12時、3時、9時位置で高さの測定を行って確認する。

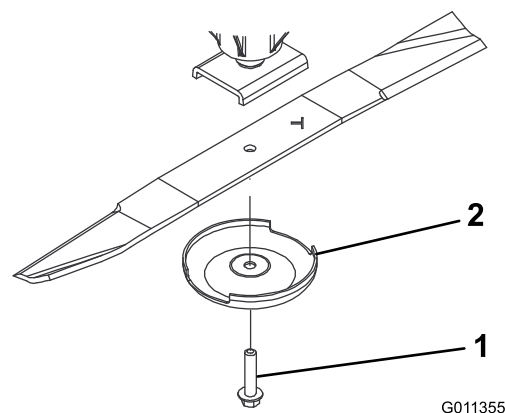


図 63

G011355

1. ブレードボルト
2. 芝削り防止キャップ

3. ブレードを取り付ける時は、セール立ち上がっている部分がカッティングデッキの天井を向くように取り付け、芝削り防止カップをつけてブレードボルトで固定する 図 63。各ブレードボルトを 115149N・m 11.815.2kg・m = 85110ft-lb にトルク締めする。

ブレードの取り外しと取り付け

ブレードが堅いものに当たった、バランスが取れていない、磨耗した、曲がったなどの場合には新しいものと交換する必要があります。安全を確保し、適切な刈りを行うために、ブレードは必ず Toro 社の純正品をお使いください。他社のブレードを使用すると危険な場合がありますから絶対にやめてください。

1. 刈り込みデッキを一番高い位置まで上昇させ、キーを OFF 位置にし、駐車ブレーキを掛ける。カッティングデッキが落下しないように支持ブロックでサポートする。
2. ぼろきれや厚いパッドの入った手袋を使ってブレードの端部をしっかりと握る。スピンドルのシャフトからブレードボルト、芝削り防止カップ、ブレードを取り外す 図 63。

ブレードの点検と研磨

1. 刈り込みデッキを一番高い位置まで上昇させ、キーを OFF 位置にし、駐車ブレーキを掛ける。
2. 刈り込みデッキが落下しないように支持ブロックでサポートする。
3. ブレードの切っ先を注意深く観察、特に、直線部と曲線部が交わる部分をよく観察する 図 64。

注 この、直線部と曲線部の交差域は、砂などによる磨耗が進みやすい部分なので、機械を使用する前によく点検することが必要である。

4. 磨耗が進んでいる場合 図 64 には、ブレードを交換する [ブレード回転面の管理 \(ページ 50\)](#) を参照。

▲ 危険

ブレードの磨耗を放置すると、ブレードのセール部と平坦部との間に割れ目が発生する 図 63。この割れ目が拡大すると、最終的にはブレードがちぎれてハウジングの下から飛び出し、これがオペレータや周囲の人に重大な人身事故となる。

- ブレードが磨耗や破損していないか定期的に点検すること。
- 磨耗したり破損したりしたブレードは必ず交換する。

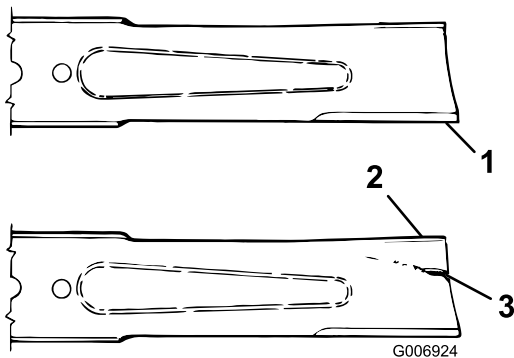


図 64

1. 刃先
2. セール部
3. 磨耗や溝や割れの発生

5. 全部のブレードの切っ先を丁寧に点検する。切っ先が鈍くなっていたり欠けていたりした場合には研磨する。研磨は刃先の上面だけに行い、刃の元々の角度を変えずに刃先を鋭利にする 図 65。
6. 刃先に摩耗や欠けがある場合には研磨するが、研磨は刃先の上面だけに行い、刃の元々の角度を変えないように十分注意する 図 65。

注 ブレードの左右を均等に削れば、バランスを狂わすことなく研磨を行うことができる。

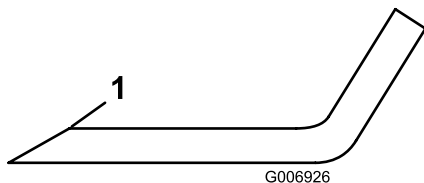


図 65

1. この角度を変えないように研磨すること

7. ブレードが真っ直ぐか曲がっているかを点検するには、平らな面において端部を観察する。

注 ブレードを平面に置いたとき、両端部が中心部よりもわずかに下がっており、刃部がブレードのヒール部かかと、後部よりも下がっているのが正しい形状である。このような形状であれば、切り口がきれいな刈り上がりとなり、エンジンのパワー消費も最小限ですむ。逆に、両端部が中央部よりも高くなっていたり、刃部がヒール部よりも高くなっている場合、そのブレードは変形しているので交換すること。

8. ブレードを取り付ける時は、セイル立ち上がっている部分がカッティングデッキの天井を向くように取り付け、芝削り防止カップをつけてブレードボルトで固定する。各ブレードボルトを 115149N m 11.815.2kg.m = 85110ft-lb にトルク締めする。

その他の保守整備

前ローラの整備

前ローラに磨耗や過剰なガタ、固着などが発生していないか点検してください。これらの症状が見られたら、ローラの整備を行うか、必要部材の交換を行ってください。

前ローラの分解

1. ローラ取り付けボルトを外す 図 66。
2. ローラハウジングの端部からポンチを差し込み、ベアリングのインナーレースを均等に叩き込んで、ベアリングを反対側にたたき出す。インナーレースのリップが 1.5mm 突き出れば適正である。

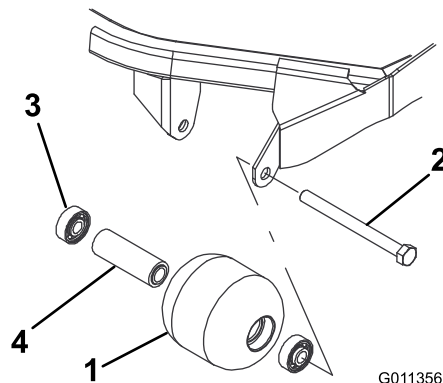


図 66

1. 前ローラ
2. 取り付けボルト
3. ベアリング
4. ベアリングスペーサ

3. 2つ目のベアリングはプレスを使って抜く。
4. ローラハウジング、ベアリング、ベアリングスペーサに破損がないか点検する 図 66。
5. 破損している部品を交換し、組み立てを行う。

前ローラの組み立て

1. 第一のベアリングをローラハウジングに押し込む 図 66。アウターレースのみを押すか、インナーレースとアウターレースを均等に押すかする。
2. スペーサを入れる 図 66。
3. 第二のベアリングをローラハウジングに入れる 図 66 このときは、インナーレースがスペーサに接触するまで、インナーレースとアウターレースを均等に押す。
4. ローラアセンブリをデッキフレームに組み付ける。
5. ローラアセンブリとローラ取り付けブラケットとの間の隙間が 1.5mm 未満となっていることを確認する。

6. 隙間が 1.5mm を超えている場合には、直径 15mm のワッシャを必要なだけはさんで隙間を埋めること。

重要 ローラアセンブリ取り付け時に 1.5mm を超える隙間を残すと、ベアリングの側面に負荷がかかってベアリングが早期に破損する可能性があります。

7. 取り付けボルトを 108N・m/11kg・m = 80ft-lb にトルク締めする。

保管

格納保管の準備

トラクションユニットの整備

1. トラクションユニット、カッティングデッキ、エンジンをていねいに洗浄する。
2. タイヤ空気圧を点検する。全部のタイヤ空気圧を 83-103 kPa/0.84-1.05 kg/cm²=12-15 psi に調整する。
3. ボルトナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。
4. グリス注入部やピボット部全部をグリスアップする。余分のグリスやオイルはふき取る。
5. 塗装のはがれている部分に軽く磨きをかけ、タッチアップする。金属部の変形を修理する。
6. バッテリーとケーブルに以下の作業を行う
 - A. バッテリー端子からケーブルを外す。

注 バッテリーの接続を外すときには、必ずマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはいつでも、プラス側を先に接続し、次にマイナス側を接続してください。

- B. バッテリー本体、端子、ケーブル端部を重曹水とブラシで洗浄する。
- C. 腐食防止のために両方の端子部に Grafo 112X スキンオーバーグリス P/N 505-47 またはワセリンを塗る。
- D. 電極板の劣化を防止するため、60日ごとに24時間かけてゆっくりと充電する。

エンジンの整備

1. エンジンオイルを抜き取り、ドレンプラグをはめる。
2. オイルフィルタを外して捨てる。新しいオイルフィルタを取り付ける。
3. 新しいエンジンオイルを所定量入れる。
4. キーを ON 位置に回し、エンジンを始動し、アイドル速度で約2分間運転する。
5. 始動キーを OFF 位置に回す
6. 燃料タンクパイプフィルタ/水セパレータから燃料をすべて抜きとる。
7. 燃料タンクの内部をきれいな燃料で洗浄する。
8. 燃料系統の接続状態を点検し必要な締め付けを行う。
9. エアクリーナをきれいに清掃する。
10. エアクリーナの吸気口とエンジンの排気口を防水テープでふさぐ。

11. 不凍液の量を確認し必要に応じ補給する保管場所の最低気温を考慮すること。

カッティングデッキ

カッティングデッキをトラクションユニットから外した場合は、必ずスピンドルの上部にスピンドルプラグを取り付けて、ほこりや水の浸入を防止してください。

米国外のディストリビューター一覧表

ディストリビューター輸入販売代理店	国	電話番号	ディストリビューター輸入販売代理店	国	電話番号
Agrolanc Kft	ハンガリー	36 27 539 640	Maquiver S.A.	コロンビア	57 1 236 4079
Asian American Industrial (AAI)	香港	852 2497 7804	Maruyama Mfg. Co. Inc.	日本	81 3 3252 2285
B-Ray Corporation	大韓民国	82 32 551 2076	Mountfield a.s.	チェコ共和国	420 255 704 220
Brisa Goods LLC	メキシコ	1 210 495 2417	Mountfield a.s.	スロバキア	420 255 704 220
Casco Sales Company	プエルトリコ	787 788 8383	Munditol S.A.	アルゼンチン	54 11 4 821 9999
Ceres S.A.	コスタリカ	506 239 1138	Norma Garden	ロシア	7 495 411 61 20
CSSC Turf Equipment (pvt) Ltd.	スリランカ	94 11 2746100	Oslinger Turf Equipment SA	エクアドル	593 4 239 6970
Cyril Johnston & Co.	北アイルランド	44 2890 813 121	Oy Hako Ground and Garden Ab	フィンランド	358 987 00733
Cyril Johnston & Co.	アイルランド共和国	44 2890 813 121	Parkland Products Ltd.	ニュージーランド	64 3 34 93760
Fat Dragon	中華人民共和国	886 10 80841322	Perfetto	ポーランド	48 61 8 208 416
Femco S.A.	グアテマラ	502 442 3277	Pratoverde SRL.	イタリア	39 049 9128 128
FIVEMANS New-Tech Co., Ltd	中華人民共和国	86-10-6381 6136	Prochaska & Cie	オーストリア	43 1 278 5100
ForGarder OU	エストニア	372 384 6060	RT Cohen 2004 Ltd.	イスラエル	972 986 17979
ゴルフ場用品株式会社	日本	81 726 325 861	Riversa	スペイン	34 9 52 83 7500
Geomechaniki of Athens	ギリシャ	30 10 935 0054	Lely Turfcare	デンマーク	45 66 109 200
Golf international Turizm	トルコ	90 216 336 5993	Lely (U.K.) Limited	英国	44 1480 226 800
Hako Ground and Garden	スウェーデン	46 35 10 0000	Solvart S.A.S.	フランス	33 1 30 81 77 00
Hako Ground and Garden	ノルウェー	47 22 90 7760	Spypros Stavrinides Limited	キプロス	357 22 434131
Hayter Limited (U.K.)	英国	44 1279 723 444	Surge Systems India Limited	インド	91 1 292299901
Hydroturf Int. Co Dubai	アラブ首長国連合	97 14 347 9479	T-Markt Logistics Ltd.	ハンガリー	36 26 525 500
Hydroturf Egypt LLC	エジプト	202 519 4308	Toro Australia	オーストラリア	61 3 9580 7355
Irrimac	ポルトガル	351 21 238 8260	トロ・ヨーロッパNV	ベルギー	32 14 562 960
Irrigation Products Int'l Pvt Ltd.	インド	0091 44 2449 4387	Valtech	モロッコ	212 5 3766 3636
Jean Heybroek b.v.	オランダ	31 30 639 4611	Victus Emak	ポーランド	48 61 823 8369

欧州におけるプライバシー保護に関するお知らせ

トロが収集する情報について

トロ・ワランティエ・カンパニー・トロは、あなたのプライバシーを尊重します。この製品について保証要求が出された場合や、製品のリコールが行われた場合にあなたに連絡することができるように、トロと直接、またはトロの代理店を通じて、あなたの個人情報の一部をトロに提供していただくようお願いいたします。

トロの製品保証システムは、米国内に設置されたサーバーに情報を保存するため、個人情報の保護についてあなたの国とまったく同じ内容の法律が適用されるとは限りません。

あなたがご自分の個人情報を提供なさることにより、あなたは、その情報がこの「お知らせ」に記載された内容に従って処理されることに同意したことになります。

トロによる情報の利用

トロでは、製品保証のための処理ならびに製品にリコールが発生した場合など、あなたに連絡をすることが必要になった場合のために、あなたの個人情報を利用します。また、トロが上記の業務を遂行するために必要となる活動のために、弊社の提携会社、代理店などのビジネス・パートナーに情報を開示する場合があります。弊社があなたの個人情報を他社に販売することはありません。ただし、法の定めによって政府や規制当局からこれらの情報の開示を求められた場合には、かかる法規制に従い、また弊社ならびに他のユーザー様を保護する目的のために情報開示を行う権利を留保します。

あなたの個人情報の保管について

トロでは、情報収集の当初の目的を遂行するのに必要な期間にわたって、また法に照らして必要な期間法律によって保存期間が決められている場合などにわたって情報の保管を行います。

弊社はあなたの個人情報の流出を防ぎます

トロは、あなたの個人情報の保護のために妥当な措置を講ずることをお約束します。また、情報が常に最新の状態に維持されるよう必要な手段を講じます。

あなたの個人情報やその訂正のためのアクセス

登録されているご自分の情報をご覧になりたい場合には、以下にご連絡ください legal@toro.com。

オーストラリアにおける消費者保護法について

オーストラリアのお客様には、梱包内部に資料を同梱しているほか、弊社代理店にても法律に関する資料をご用意しております。



トロの品質保証

年間品質保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro フランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品「製品」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレータを除くすべての製品に適用されますエアレータに関する保証については該当製品の保証書をご覧ください。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われる場合には、「製品」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラー に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952-888-8801 または 800-952-2740
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーはオペレーターズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品や Toro 以外のアクセサリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。オペレーターズマニュアルに記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリングシールドタイプ、グリス注入タイプ共、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、その他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェックバルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない燃料、冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- エンジンのための適正な燃料ガソリン、軽油、バイオディーゼルなどを使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店ディストリビュータまたはディーラーへおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。

- 通常の使用にともなう音、振動、磨耗、損耗および劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「部品」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

ディープサイクルおよびリチウムイオン・バッテリーの保証

ディープサイクルバッテリーやリチウムイオン・バッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。注リチウムイオンバッテリーについてリチウムイオンバッテリーには、その部品の性質上、使用開始後 3-5 年についてのみ保証が適用される部品があり、その保証は期間割保証補償額減方式となります。さらに詳しい情報については、オペレーターズマニュアルをご覧ください。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生する間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について

米国においては環境保護局EPAやカリフォルニア州法CARBで定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧ください。